

令和6（2024）年度

地域国際化実態調査
結果報告書（概要）

令和7（2025）年3月

栃木県生活文化スポーツ部

県民協働推進課

目次

第1章 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査方法等	1
3	回収結果	2
4	調査委託先	2
5	報告書の見方	2

第2章 外国人住民向け調査の結果（概要）

1	回答者の属性	3
(1)	国籍・地域	3
(2)	年齢	3
(3)	在留資格	4
(4)	居住地	5
(5)	職業	6
(6)	同居者	6
(7)	日本の滞在期間	7
(8)	日本語能力の程度	8
(9)	日本語学習の状況	10
(10)	地域の日本人住民との付き合いの状況	11
(11)	地域における活動や付き合いの意向	11
2	栃木県で生活する上で困ったこと	12
(1)	言葉の違いを理由に困ったこと	12
(2)	言葉の違いを理由に困ったときの対応方法	13
(3)	文化・慣習の違いを理由に困ったこと	14
(4)	文化・慣習の違いを理由に困ったときの対応方法	15
(5)	日本人でないことを理由に偏見や不当な扱いを受けた経験	16
3	共生社会のために必要なこと・自分にできること	17
(1)	栃木県に住んでいる理由	17
(2)	栃木県が外国人に住む場所として選ばれるために重要なこと	18
(3)	共生社会において必要な環境	19
(4)	共生社会のために日本人住民に期待すること	20
(5)	共生社会のために自分ができること	21
4	行政に求める取組	22

第3章 日本人住民向け調査の結果（概要）

1	回答者の属性	23
(1)	年齢	23
(2)	居住地	24
(3)	同居者	25
(4)	地域の外国人住民との付き合いの状況	26
(5)	地域の外国人住民との付き合い（交流）の意向	27
2	栃木県で生活する外国人住民に関して感じる事	28
(1)	外国人住民が生活する上で抱えていると思う困難	28
(2)	外国人住民が増え続けることが見込まれる中で不安に思うこと	37
(3)	外国人住民の増加への不安はどのようなことがあればなくなるか	38
3	共生社会のために必要なこと・自分にできること	39
(1)	共生社会において必要な環境	39
(2)	共生社会のために外国人住民に期待すること	40
(3)	共生社会のために自分ができること	41
4	行政に求める取組	42

第1章 調査の概要

1 調査の目的

令和8年度以降の本県が目指す国際化を推進するための考え方や取組の方向性等を示す次期とちぎ国際戦略を策定するにあたり、県内に在住する外国人の生活実態や支援ニーズ及び日本人が外国人住民と共に地域で生活する上での課題や必要な取組などを把握し、本県の多文化共生の推進に向けた施策展開の基礎資料とするための調査を行う。

2 調査方法等

(1) 外国人住民向け調査

- ア 調査地域 : 栃木県全域
- イ 調査対象 : 令和6年10月1日現在、栃木県内の住民基本台帳に記載のある満18歳以上の外国人住民
- ウ 標本数 : 1,400人
- エ 抽出方法 : 層化(市町別)無作為抽出法
- オ 調査方法 : 二次元コードを付した依頼通知を郵送し、「WEB」又は「メール・郵送(※)のいずれかによる調査票の提出」により回答を依頼
※調査票は郵送による回答の希望があった場合に送付した。
- カ 調査票言語 : 日本語、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、ネパール語、やさしい日本語(ルビ付き)の9言語の中から回答者が回答したい言語を使用
- キ 調査項目 : ①回答者の属性、②栃木県で生活する上で困ったこと、③共生社会のために必要なこと・自分にできること、④行政に求める取組
- ク 調査期間 : 令和7年1月10日(金)～2月7日(金)

(2) 日本人住民向け調査

- ア 調査地域 : 栃木県全域
- イ 調査対象 : 令和6年10月1日現在、栃木県内の住民基本台帳に記載のある満18歳以上の日本人住民
- ウ 標本数 : 1,400人
- エ 抽出方法 : 層化(市町別)無作為抽出法
- オ 調査方法 : 二次元コードを付した依頼通知、調査票及び返信用封筒を郵送し、「WEB」又は「メール・郵送のいずれかによる調査票の提出」により回答を依頼
- カ 調査票言語 : 日本語
- キ 調査項目 : ①回答者の属性、②栃木県で生活する外国人住民に関して感じること、③共生社会のために必要なこと・自分にできること、④行政に求める取組
- ク 調査期間 : 令和7年1月10日(金)～2月7日(金)

3 回収結果

(1) 外国人住民向け調査

- ア 発送数：1,400通
- イ 回収数：171通
- ウ 回答率：12.2%

(2) 日本人住民向け調査

- ア 発送数：1,400通
- イ 回収数：532通
- ウ 回答率：38.0%

4 調査委託先

株式会社B I Z P O W E R

5 報告書の見方

- 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。グラフ及び表は、基本的に回答数の多いものから順に並べ替え表記している（「その他」等を除く。）。
- 基本的に単一回答の設問は円グラフ、複数回答の設問は棒グラフで表している。
- 百分率(%)の計算は回答者数nを分母とし、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単一回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で%の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- 文中の「前回調査」とは、「地域国際化実態調査」（令和2年1月・栃木県）を示す。

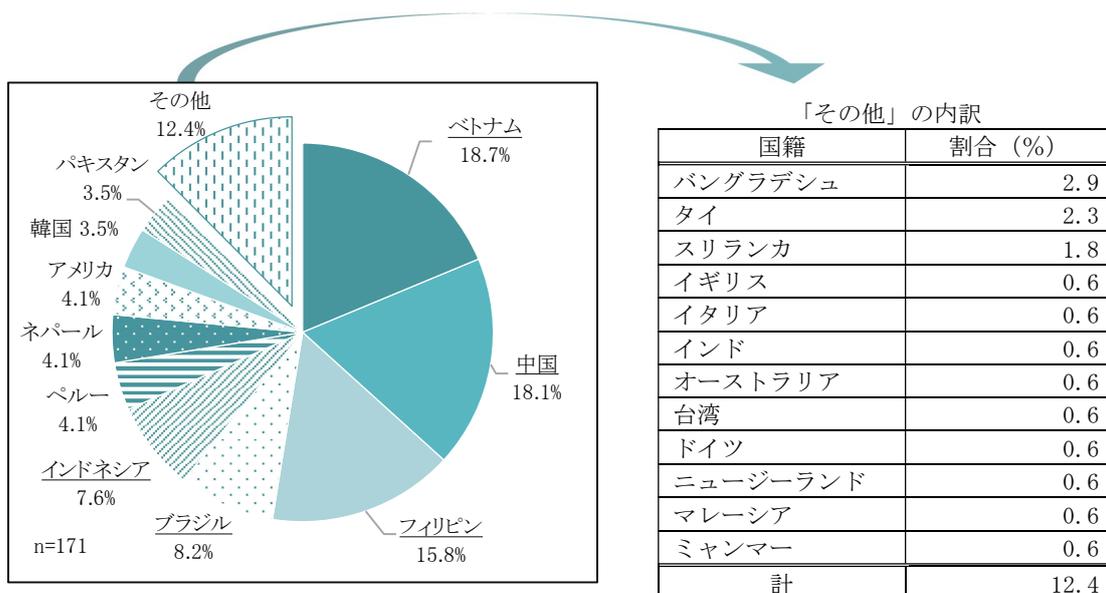
第2章 外国人住民向け調査の結果（概要）

1 回答者の属性

(1) 国籍・地域

回答者の国籍・地域は、「ベトナム」が18.7%と最も多く、次いで、「中国」(18.1%)、「フィリピン」(15.8%)、「ブラジル」(8.2%)、「インドネシア」(7.6%)の順となっている。

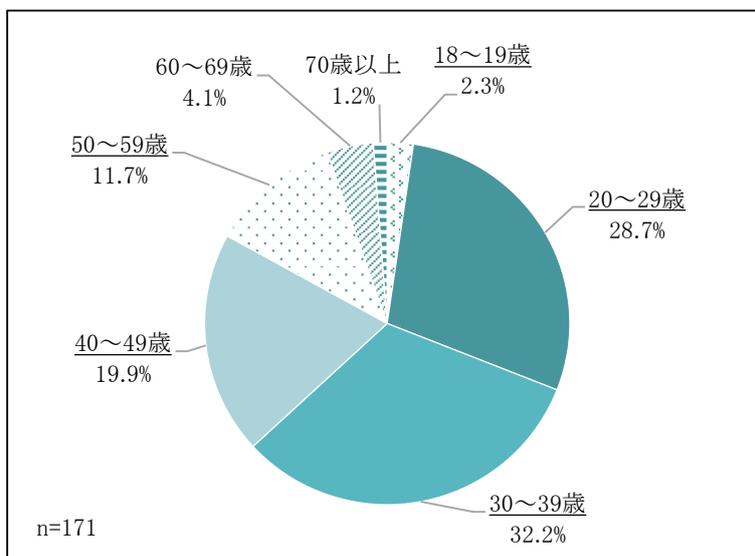
【Q1】あなたの国籍（地域）はどこですか。



(2) 年齢

回答者の年齢は、「30～39歳」が32.2%と最も多く、次いで、「20～29歳」(28.7%)、「40～49歳」(19.9%)、「50～59歳」(11.7%)、「60～69歳」(4.1%)の順となっている。

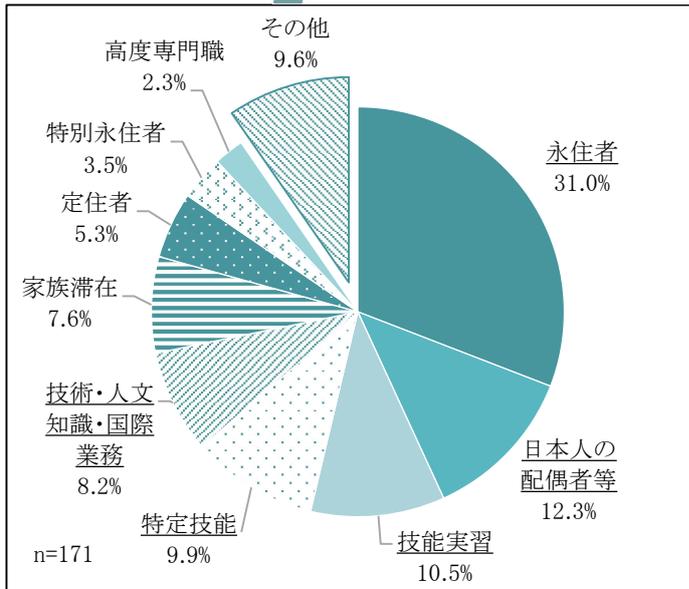
【Q2】あなたは何歳ですか。



(3) 在留資格

回答者の在留資格は、「永住者」が31.0%と最も多く、次いで、「日本人の配偶者等」(12.3%)、「技能実習」(10.5%)、「特定技能」(9.9%)、「技術・人文知識・国際業務」(8.2%)の順となっている。

【Q3】あなたの現在の在留資格を教えてください。



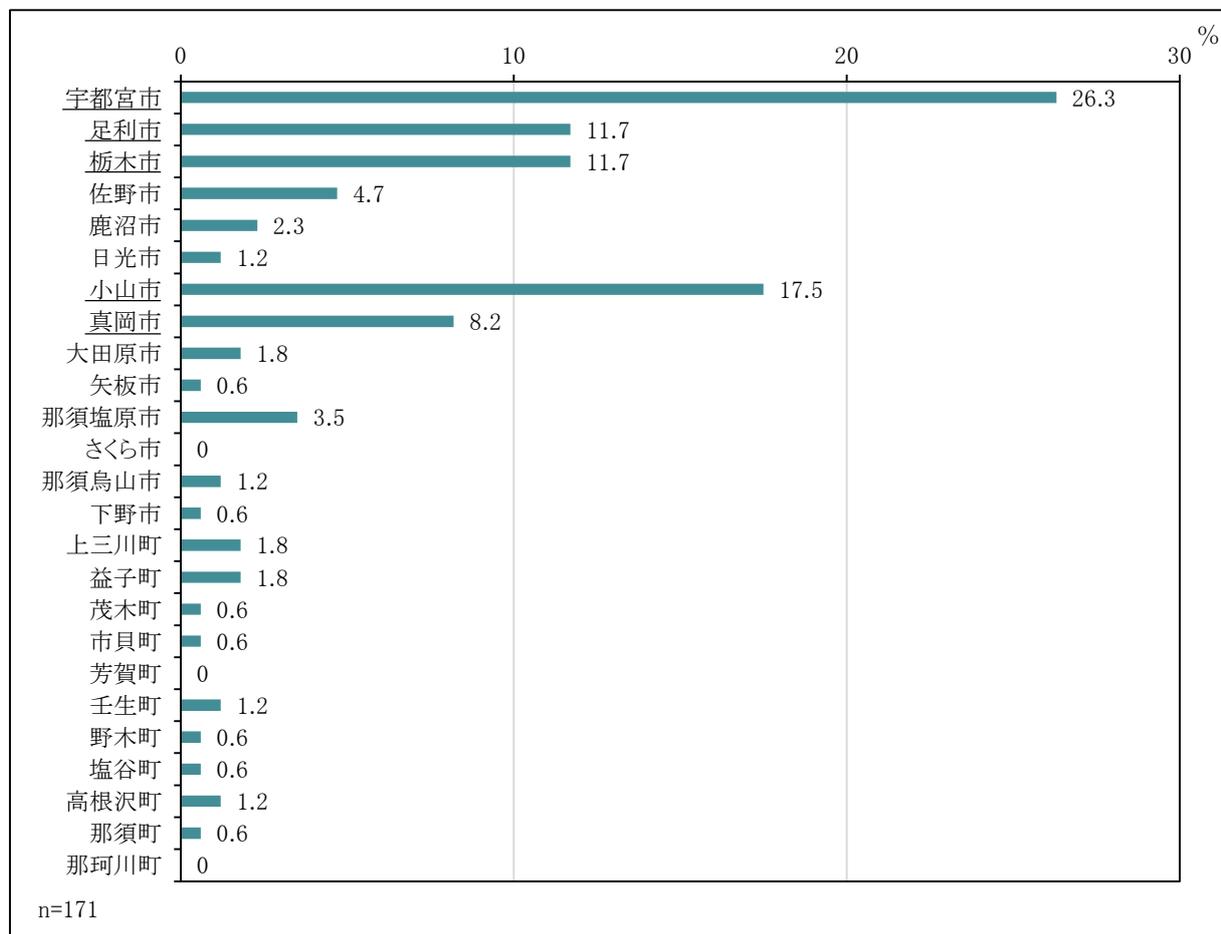
「その他」の内訳

在留資格	割合 (%)
特定活動	1.8
教育	1.2
企業内転勤	1.2
留学	1.2
研修	1.2
宗教	0.6
研究	0.6
介護	0.6
技能	0.6
永住者の配偶者等	0.6
計	9.6

(4) 居住地

回答者の居住地は、「宇都宮市」が26.3%と最も多く、次いで、「小山市」(17.5%)、「足利市」・「栃木市」(11.7%)、「真岡市」(8.2%)の順となっている。

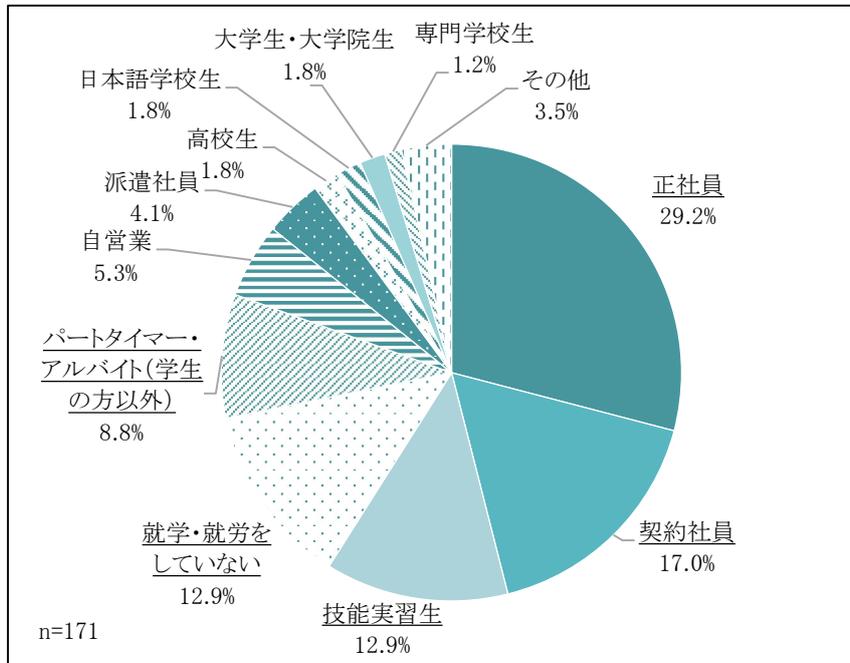
【Q4】あなたの住んでいるところはどこですか。



(5) 職業

回答者の職業は、「正社員」が29.2%と最も多く、次いで、「契約社員」(17.0%)、「技能実習生」・「就学・就労をしていない」(12.9%)、「パートタイマー・アルバイト(学生の方以外)」(8.8%)の順となっている。

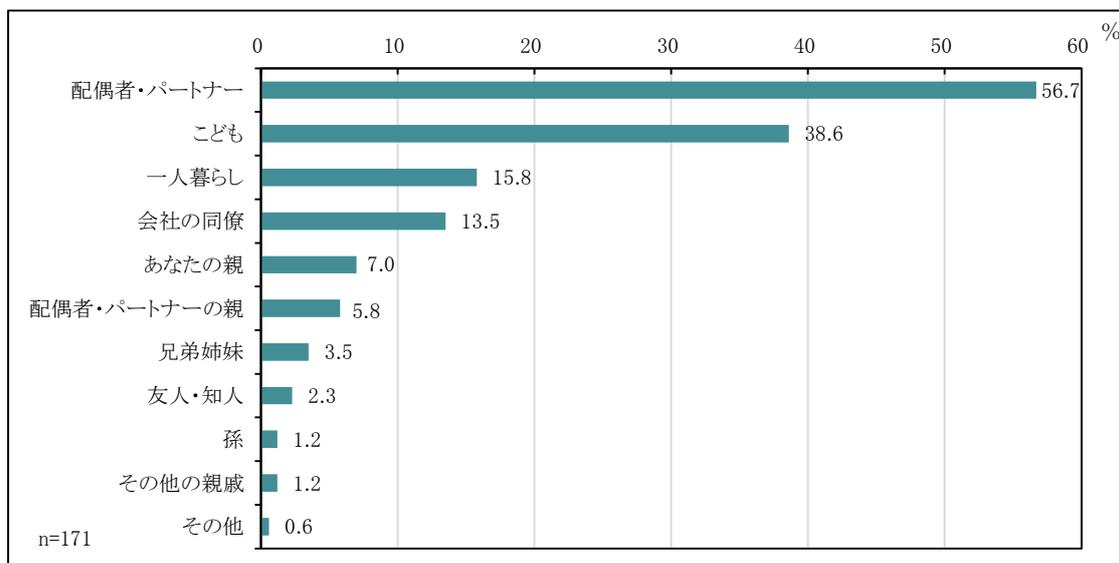
【Q5】あなたの就学・就労状況を教えてください。



(6) 同居者

回答者の同居者は、「配偶者・パートナー」が56.7%と最も多く、次いで、「子ども」(38.6%)、「一人暮らし」(15.8%)、「会社の同僚」(13.5%)、「あなたの親」(7.0%)の順となっている。

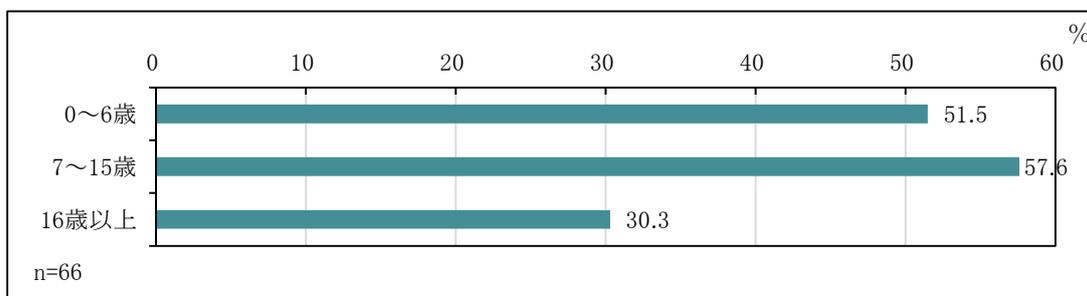
【Q6】あなたと一緒に住んでいる方を教えてください。(複数回答)



一緒に住んでいるこどもの年齢は、「7～15歳」が57.6%と最も多く、次いで、「0～6歳」(51.5%)、「16歳以上」(30.3%)の順となっている。

【Q6】あなたと一緒に住んでいる方を教えてください。(複数回答)

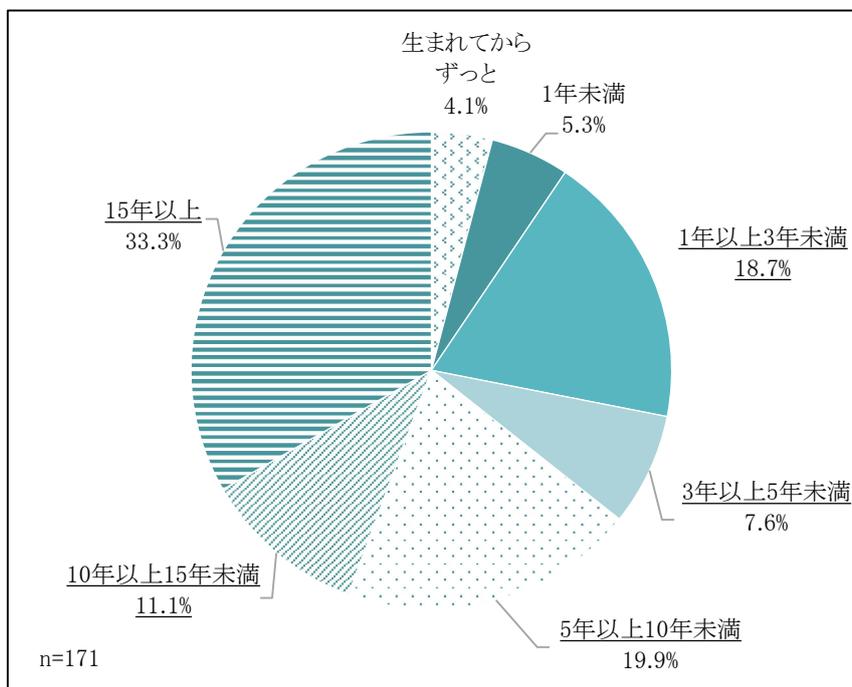
こどもの年齢



(7) 日本の滞在期間

回答者の日本の滞在期間は、「15年以上」が33.3%と最も多く、次いで、「5年以上10年未満」(19.9%)、「1年以上3年未満」(18.7%)、「10年以上15年未満」(11.1%)、「3年以上5年未満」(7.6%)の順となっている。

【Q7】あなたが日本に住んでいる期間は、合計するとどれくらいの長さになりますか。

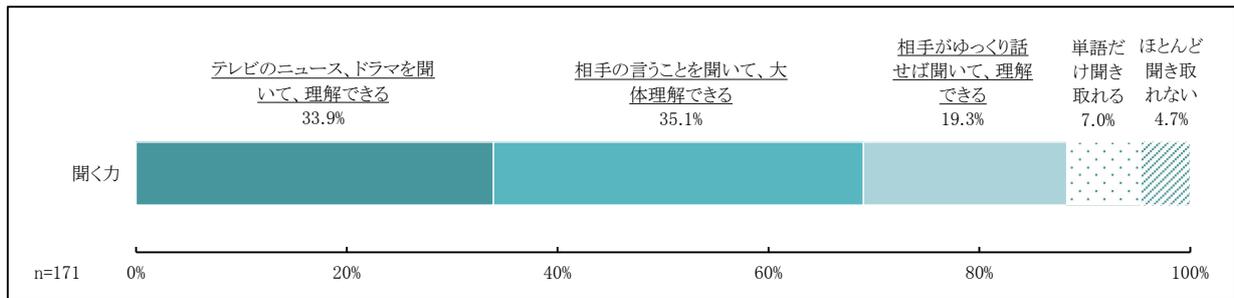


(8) 日本語能力の程度

ア 聞く力

回答者の日本語能力の程度のうち、「聞く力」については、「相手の言うことを聞いて、大体理解できる」が35.1%と最も多く、次いで、「テレビのニュース、ドラマを聞いて、理解できる」(33.9%)、「相手がゆっくり話せば聞いて、理解できる」(19.3%)の順となっている。

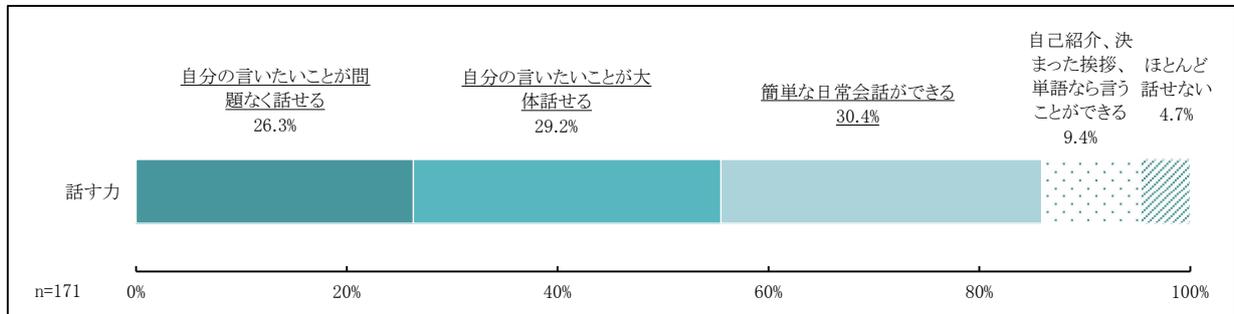
【Q8】あなたは、日本語がどれくらいできますか（聞く力）。



イ 話す力

回答者の日本語能力の程度のうち、「話す力」については、「簡単な日常会話ができる」が30.4%と最も多く、次いで、「自分の言いたいことが大体話せる」(29.2%)、「自分の言いたいことが問題なく話せる」(26.3%)の順となっている。

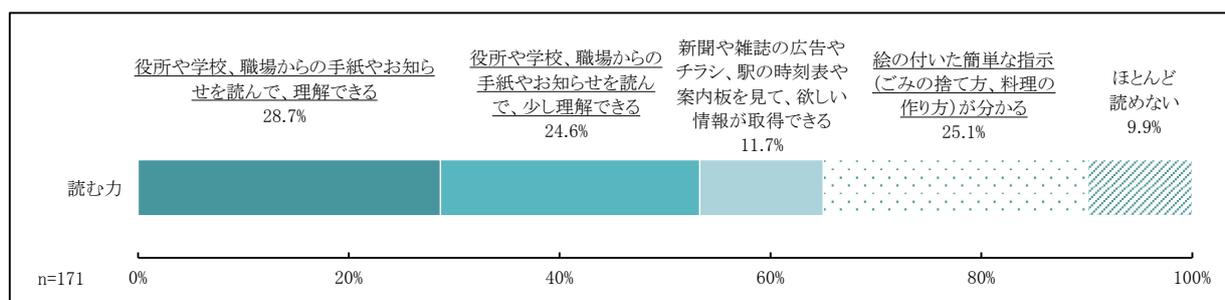
【Q8】あなたは、日本語がどれくらいできますか（話す力）。



ウ 読む力

回答者の日本語能力の程度のうち、「読む力」については、「役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、理解できる」が28.7%と最も多く、次いで、「絵の付いた簡単な指示（ごみの捨て方、料理の作り方）が分かる」（25.1%）、「役所や学校、職場からの手紙やお知らせを読んで、少し理解できる」（24.6%）の順となっている。

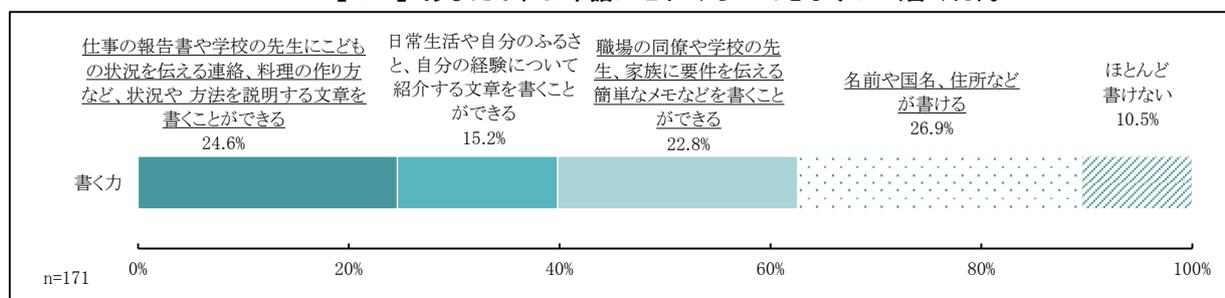
【Q8】あなたは、日本語がどれくらいできますか（読む力）。



エ 書く力

回答者の日本語能力の程度のうち、「書く力」については、「名前や国名、住所などが書ける」が26.9%と最も多く、次いで、「仕事の報告書や学校の先生にこどもの状況を伝える連絡、料理の作り方など、状況や方法を説明する文章を書くことができる」（24.6%）、「職場の同僚や学校の先生、家族に要件を伝える簡単なメモなどを書くことができる」（22.8%）の順となっている。

【Q8】あなたは、日本語がどれくらいできますか（書く力）。



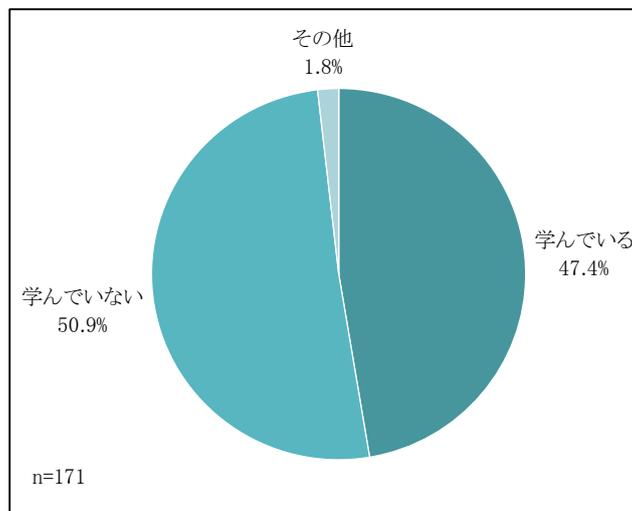
(9) 日本語学習の状況

回答者の日本語学習の状況は、「学んでいない」が 50.9%と最も多く、次いで「学んでいる」(47.4%)、「その他」(1.8%) の順となっている。

日本語を「学んでいない」と回答した人のその理由については、「既に十分に日本語ができるため」が 47.1%と最も多く、次いで、「時間がないため」(20.7%)、「特に理由はない」(12.6%) の順となっている。

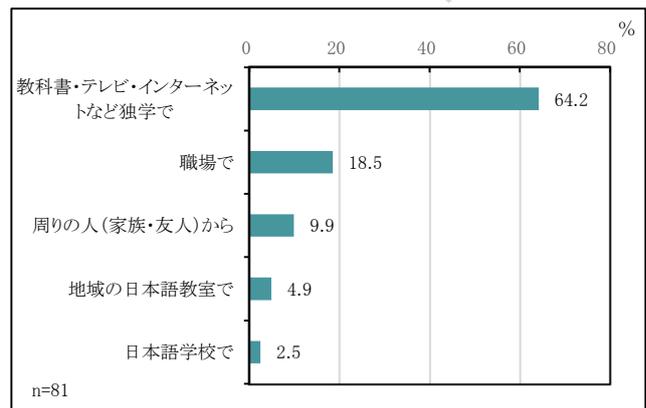
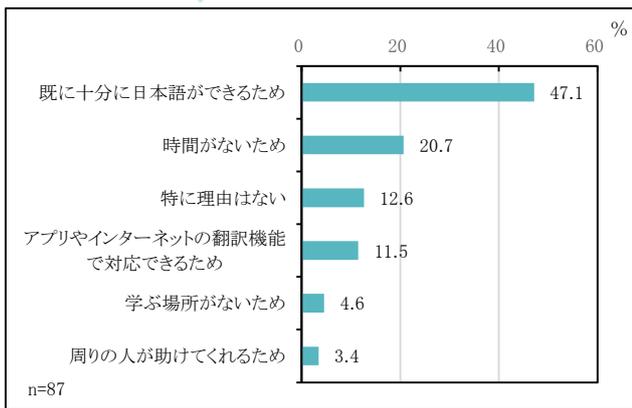
日本語を「学んでいる」と回答した人のその方法については、「教科書・テレビ・インターネットなど独学で」が 64.2%と最も多く、次いで、「職場で」(18.5%)、「周りの人(家族・友人)から」(9.9%) の順となっている。

【Q9】あなたは現在日本語を学んでいますか。



学んでいないと回答した人のその理由

学んでいると回答した人のその方法



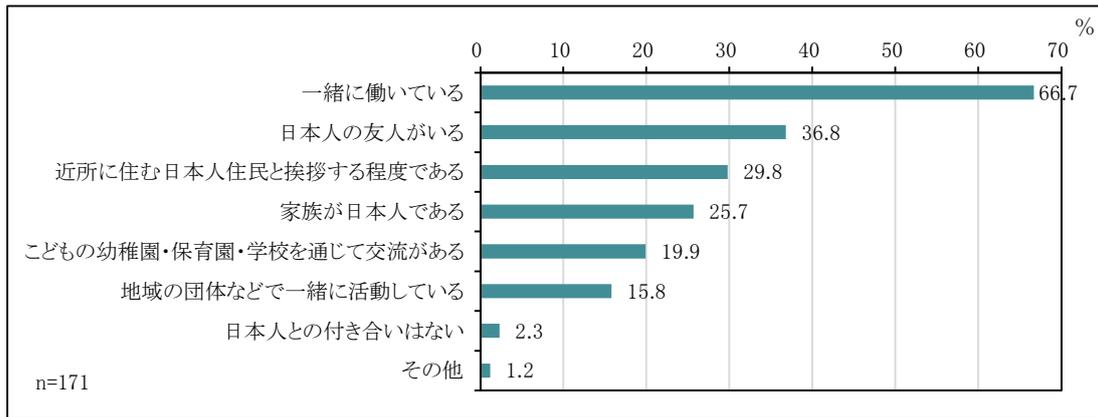
< 「その他」の主な回答 (自由記述) >

- 日本に来たばかりの頃は学んでいたが、今は歳も取り、新たなことを覚えるのが難しいため、積極的に学んではいない。
- 家庭教師とマンツーマンの授業を受けている。

(10) 地域の日本人住民との付き合いの状況

回答者の地域の日本人住民との付き合いの状況は、「一緒に働いている」が 66.7%と最も多く、次いで、「日本人の友人がいる」(36.8%)、「近所に住む日本人住民と挨拶する程度である」(29.8%)、「家族が日本人である」(25.7%)、「こどもの幼稚園・保育園・学校を通じて交流がある」(19.9%)の順となっている。

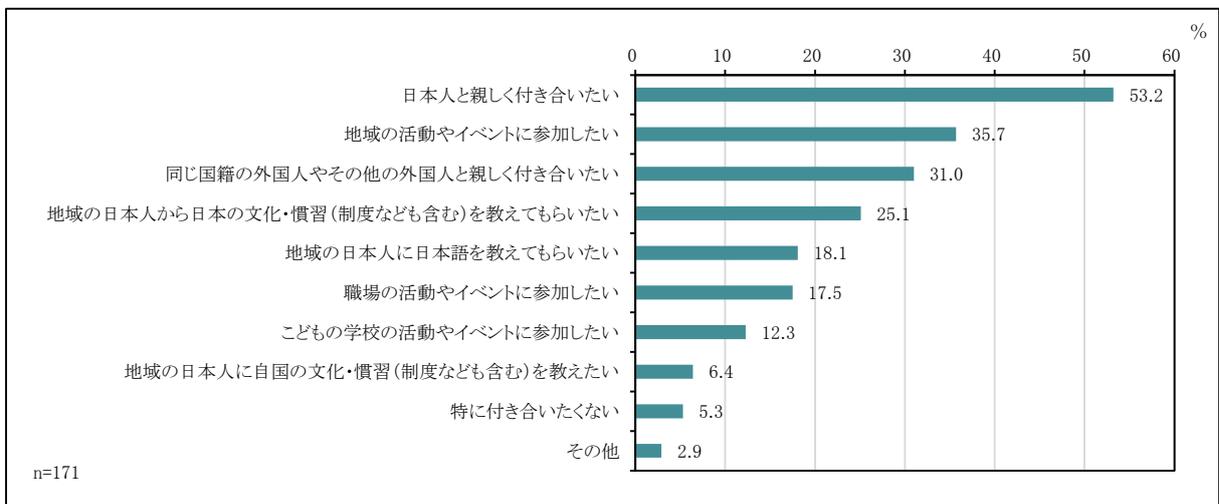
【Q10】あなたは地域の日本人住民とどのような付き合いがありますか。(複数回答)



(11) 地域における活動や付き合いの意向

回答者の地域における活動や付き合いの意向は、「日本人と親しく付き合いたい」が 53.2%と最も多く、次いで、「地域の活動やイベントに参加したい」(35.7%)、「同じ国籍の外国人やその他の外国人と親しく付き合いたい」(31.0%)、「地域の日本人から日本の文化・慣習(制度なども含む)を教えてもらいたい」(25.1%)、「地域の日本人に日本語を教えてもらいたい」(18.1%)の順となっている。

【Q11】あなたは今後、地域の日本人住民や外国人住民とどのような活動や付き合いをしたいと思いますか。(複数回答)



<「その他」の主な回答（自由記述）>

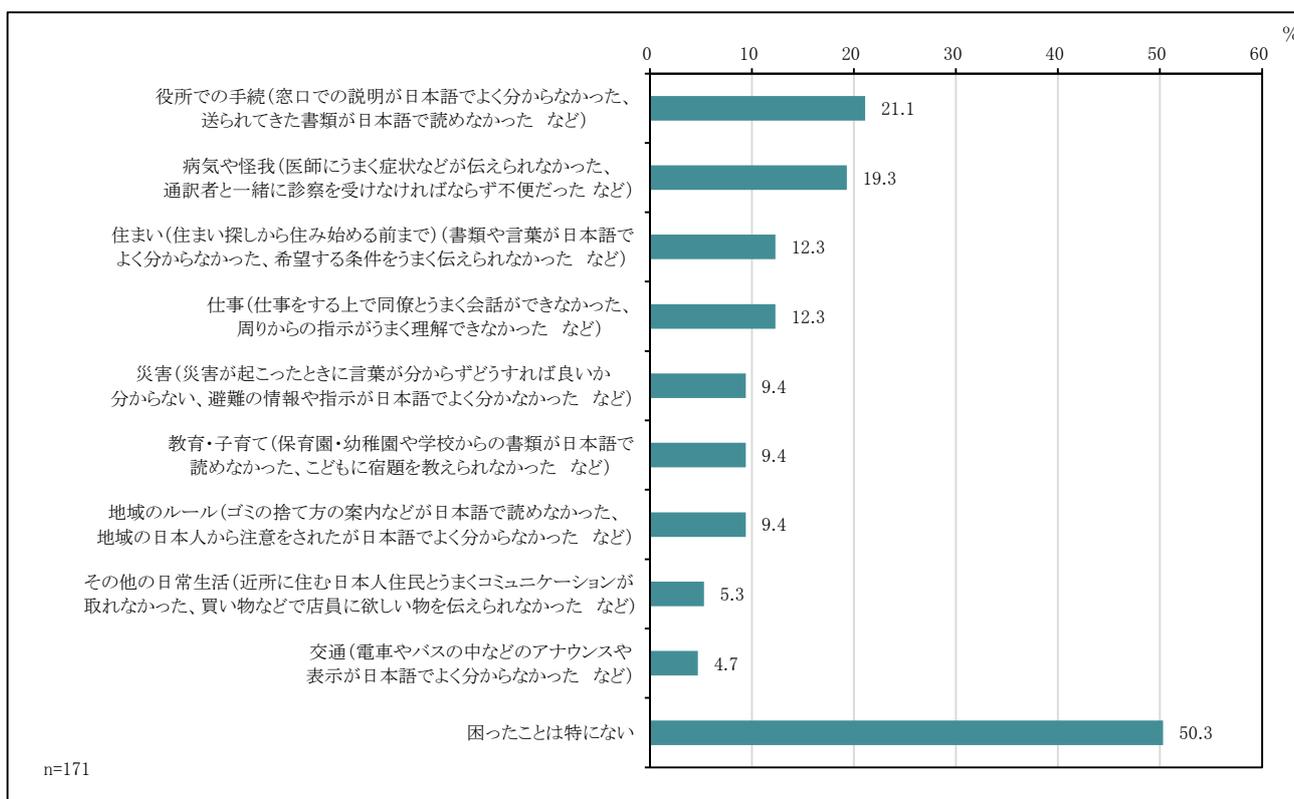
- 国籍は関係なく、友人関係を築いている。
- 日本人と交流したいが、まずは差別や偏見に対する意識を変えることが必要。

2 栃木県で生活する上で困ったこと

(1) 言葉の違いを理由に困ったこと

言葉の違いを理由に困ったことについては、「困ったことは特にない」が50.3%と最も多く、次いで、「役所での手続」(21.1%)、「病気や怪我」(19.3%)、「住まい（住まい探しから住み始める前まで）」・「仕事」(12.3%)の順となっている。

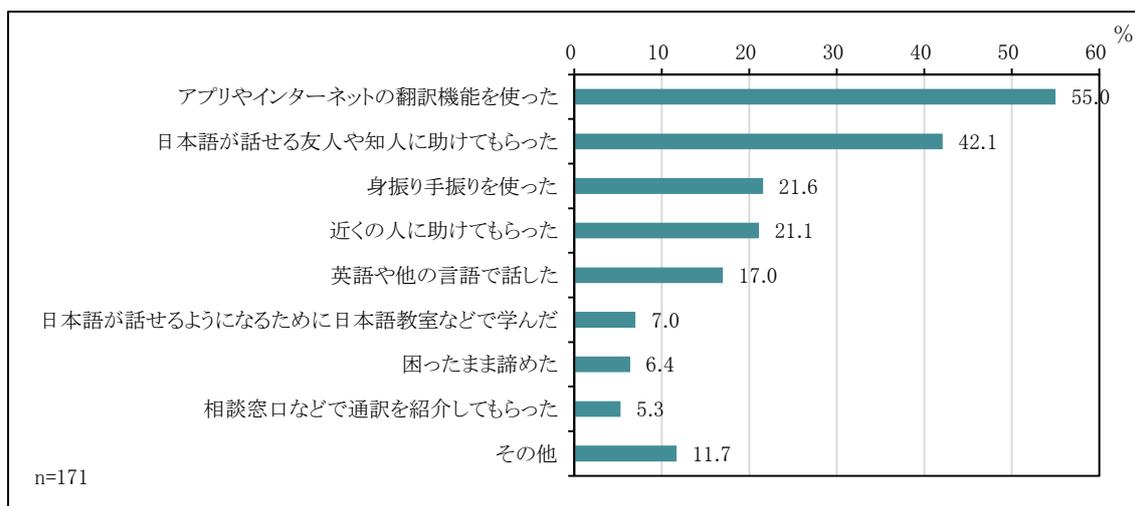
【Q12】あなたが住んでいる地域での生活の中で、言葉の違いを理由に困ったことはありますか。(複数回答)



(2) 言葉の違いを理由に困ったときの対応方法

言葉の違いを理由に困ったときの対応方法については、「アプリやインターネットの翻訳機能を使った」が55.0%と最も多く、次いで、「日本語が話せる友人や知人に助けってもらった」(42.1%)、「身振り手振りを使った」(21.6%)、「近くの人に助けってもらった」(21.1%)、「英語や他の言語で話した」(17.0%)の順となっている。

【Q13】あなたは、生活の中で言葉の違いを理由に困ったとき、どのように対応しましたか。(複数回答)



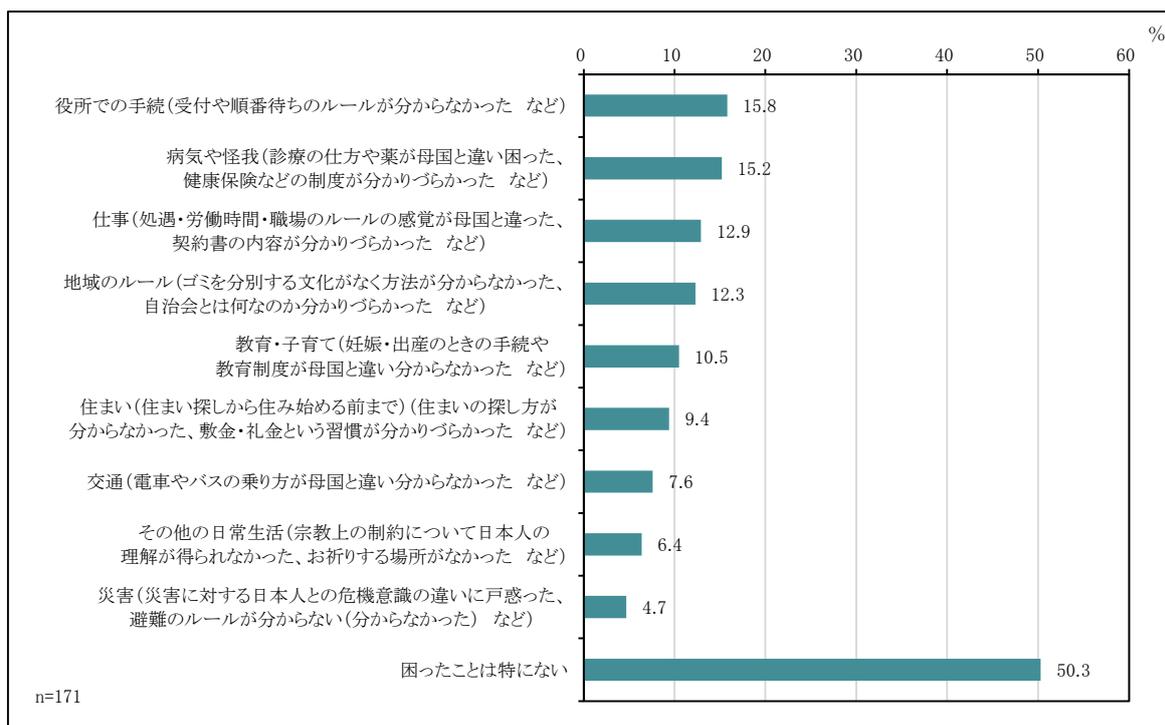
<「その他」の主な回答（自由記述）>

- 家族に助けってもらった。
- 技能実習生なので、管理団体の通訳の方々からの助けを受けた。
- 十分に日本語ができるので困っていない。

(3) 文化・慣習の違いを理由に困ったこと

文化・慣習の違いを理由に困ったことは、「困ったことは特にない」が50.3%と最も多く、次いで、「役所での手続」(15.8%)、「病気や怪我」(15.2%)、「仕事」(12.9%)、「地域のルール」(12.3%)の順となっている。

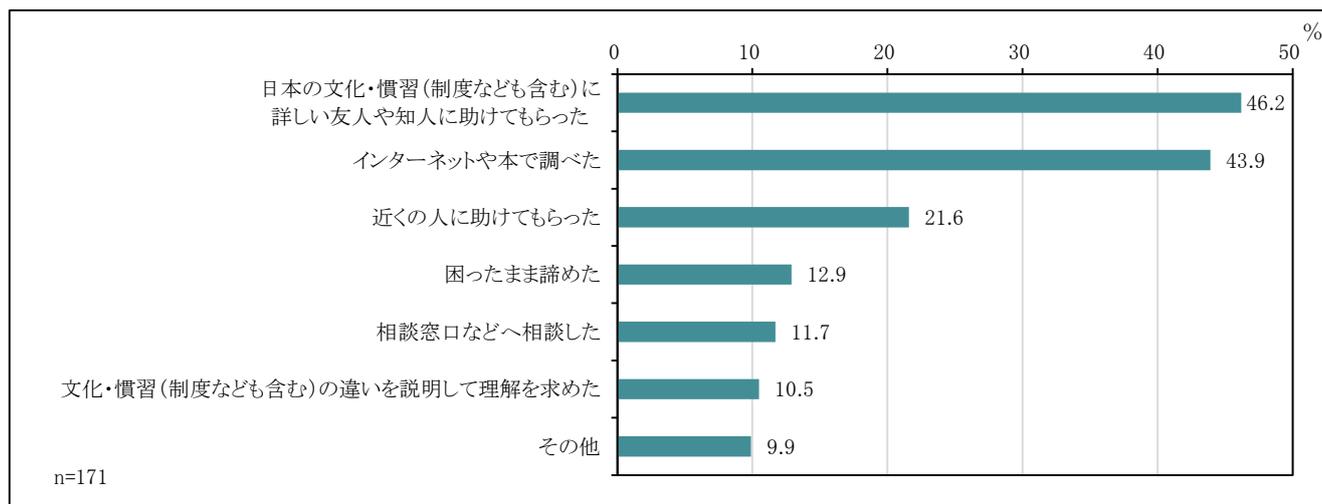
**【Q14】あなたが住んでいる地域での生活の中で、
文化・慣習（制度なども含む）の違いを理由に困ったことはありますか（複数回答）。**



(4) 文化・慣習の違いを理由に困ったときの対応方法

文化・慣習の違いを理由に困ったときの対応方法については、「日本の文化・慣習（制度なども含む）に詳しい友人や知人に助けてもらった」が46.2%と最も多く、次いで、「インターネットや本で調べた」（43.9%）、「近くの人に助けてもらった」（21.6%）、「困ったまま諦めた」（12.9%）、「相談窓口などへ相談した」（11.7%）の順となっている。

【Q15】あなたは、生活の中で文化・慣習（制度なども含む）の違いを理由に困ったとき、
どのように対応しましたか。（複数回答）



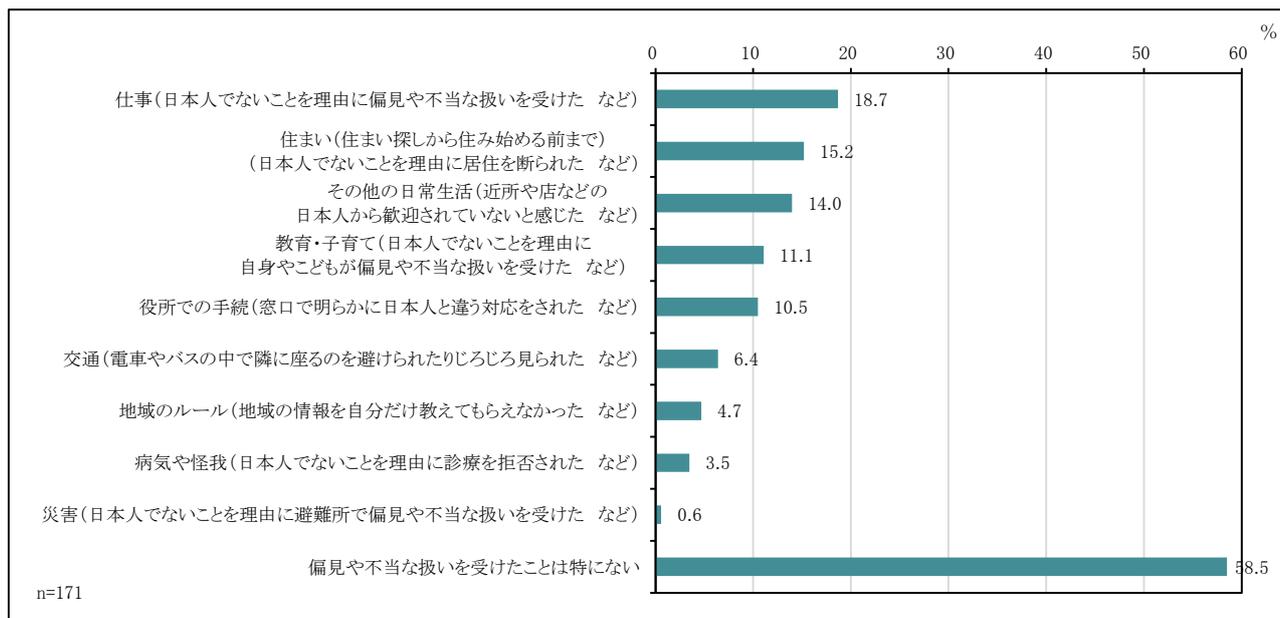
<「その他」の主な回答（自由記述）>

- 家族が日本の文化に精通しており、サポートしてくれるため、特に困っていない。
- 人材派遣会社へ相談した。

(5) 日本人でないことを理由に偏見や不当な扱いを受けた経験

日本人でないことを理由に偏見や不当な扱いを受けた経験は、「偏見や不当な扱いを受けたことは特にない」が58.5%と最も多く、次いで、「仕事」(18.7%)、「住まい(住まい探しから住み始める前まで)」(15.2%)、「その他の日常生活」(14.0%)、「教育・子育て」(11.1%)の順となっている。

【Q16】あなたが住んでいる地域での生活の中で、日本人でないことを理由に偏見や不当な扱いを受けた経験はありますか。(複数回答)

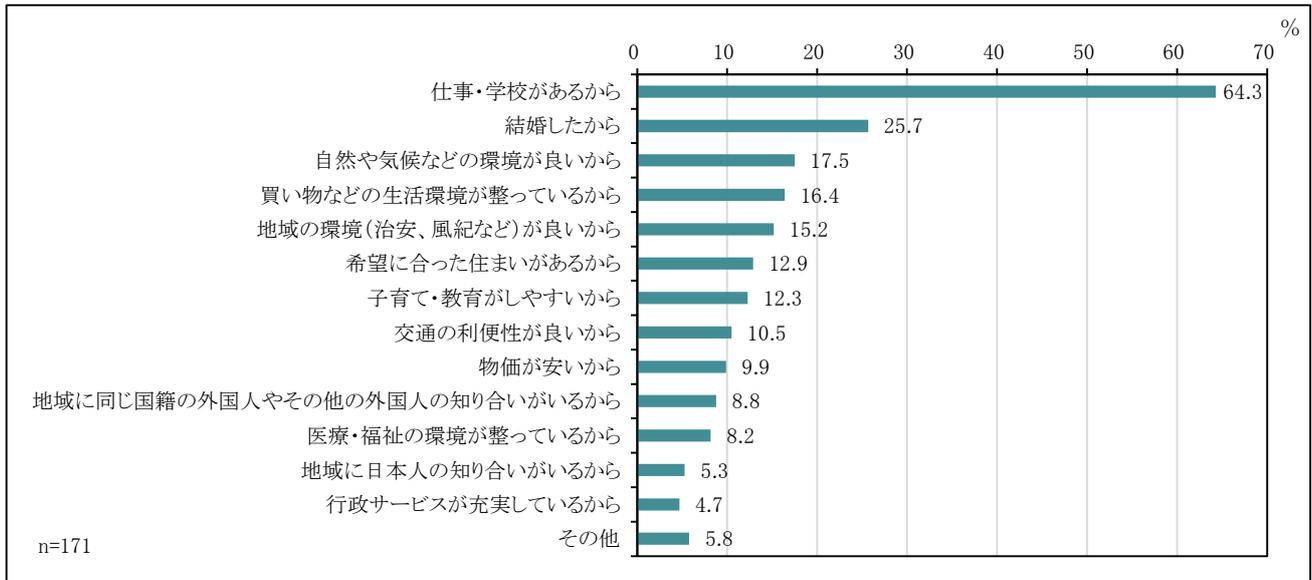


3 共生社会のために必要なこと・自分にできること

(1) 栃木県に住んでいる理由

栃木県に住んでいる理由について尋ねたところ、「仕事・学校があるから」が64.3%と最も多く、次いで、「結婚したから」(25.7%)、「自然や気候などの環境が良いから」(17.5%)、「買い物などの生活環境が整っているから」(16.4%)、「地域の環境(治安、風紀など)が良いから」(15.2%)の順となっている。

【Q17】 栃木県に住んでいる理由を教えてください。(複数回答)



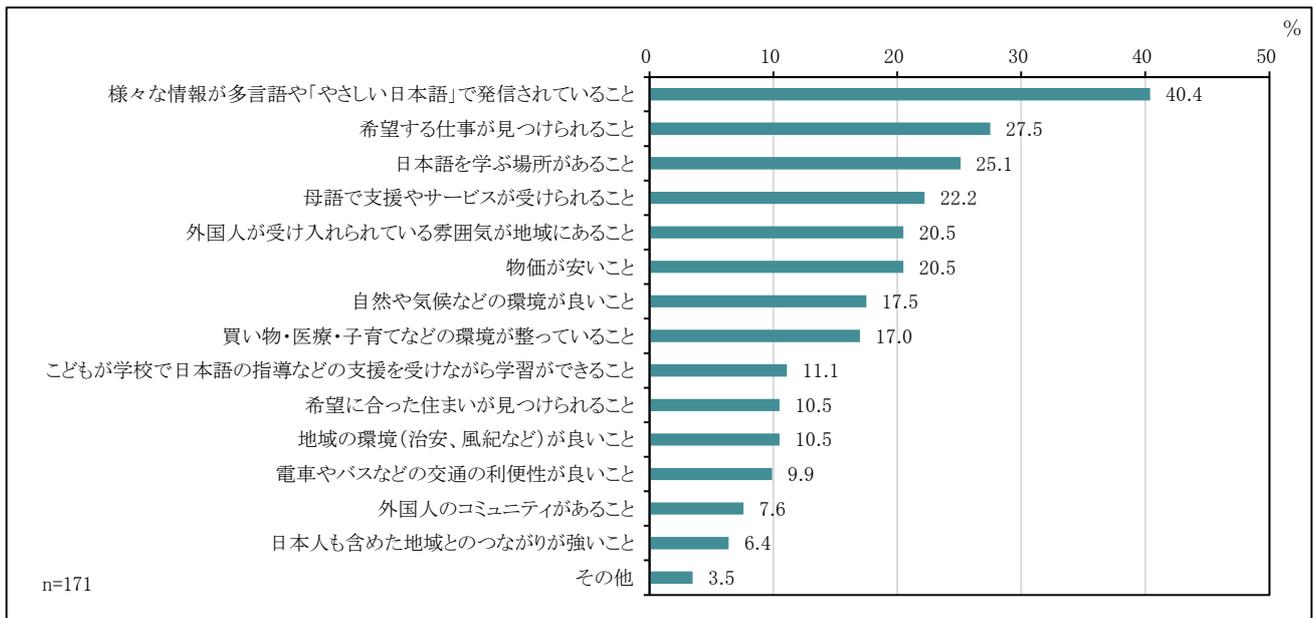
< 「その他」の主な回答(自由記述) >

- 生まれた時から栃木県に住んでいるから。
- 家族が住んでいるから。

(2) 栃木県が住む場所として選ばれるために重要なこと

栃木県が住む場所として選ばれるために重要なことについて尋ねたところ、「様々な情報が多言語や「やさしい日本語」で発信されていること」が40.4%と最も多く、次いで、「希望する仕事が見つげられること」(27.5%)、「日本語を学ぶ場所があること」(25.1%)、「母語で支援やサービスが受けられること」(22.2%)、「外国人が受け入れられている雰囲気が地域にあること」(20.5%)、「物価が安いこと」(20.5%)の順となっている。

【Q18】栃木県が外国人に住む場所として選ばれ、また、選び続けられるために、
どのようなことが重要だと思いますか。(3つまで回答)



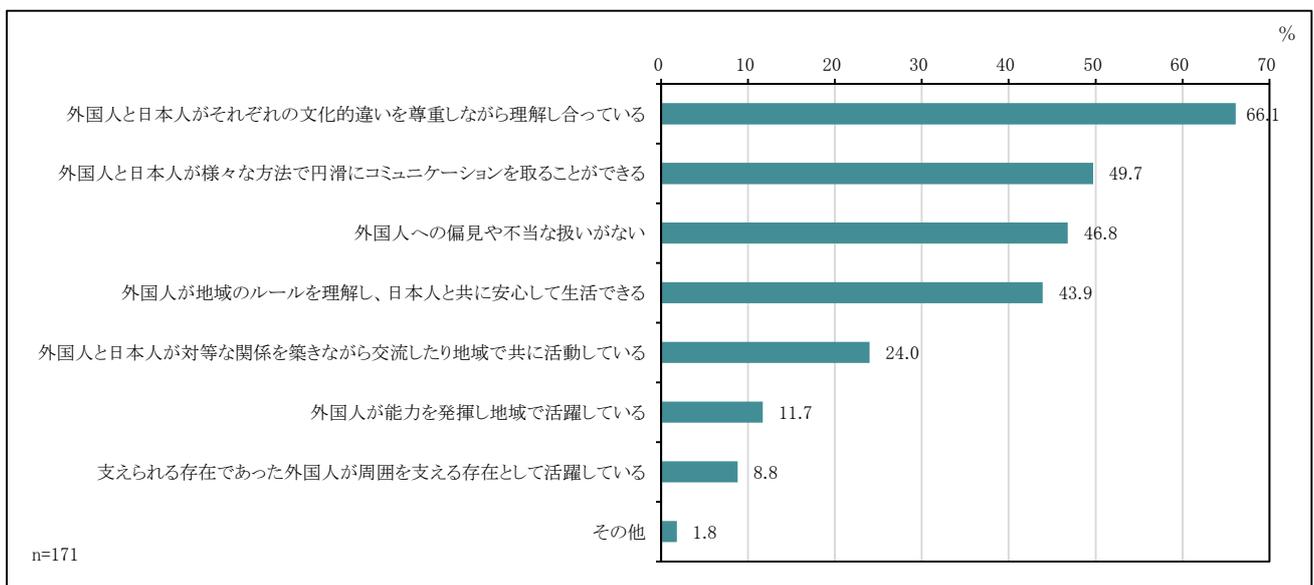
< 「その他」の主な回答(自由記述) >

- 市役所等の公共の場で外国語に対応してほしい。他県では、ネイティブの方が市役所で働いており、外国語に対応しているところを見習ってほしい。
- 多くのレストランやスーパーマーケットでムスリムフレンドリーな商品(ハラール)を提供していること。
- 地域間の格差を解消することが非常に重要。例えば、宇都宮市ではごみの分別ガイドラインが設置されている。

(3) 共生社会において必要な環境

共生社会において必要な環境について尋ねたところ、「外国人と日本人がそれぞれの文化的違いを尊重しながら理解し合っている」が66.1%と最も多く、次いで、「外国人と日本人が様々な方法で円滑にコミュニケーションを取ることができる」(49.7%)、「外国人への偏見や不当な扱いがない」(46.8%)、「外国人が地域のルールを理解し、日本人と共に安心して生活できる」(43.9%)、「外国人と日本人が対等な関係を築きながら交流したり地域で共に活動している」(24.0%)の順となっている。

【Q19】あなたにとって、共生社会（外国人が地域社会の一員として受け入れられ、外国人と日本人が共に安心・安全に暮らすことができる社会）とは、どのような環境が整っている社会のことだと思いますか。（3つまで回答）



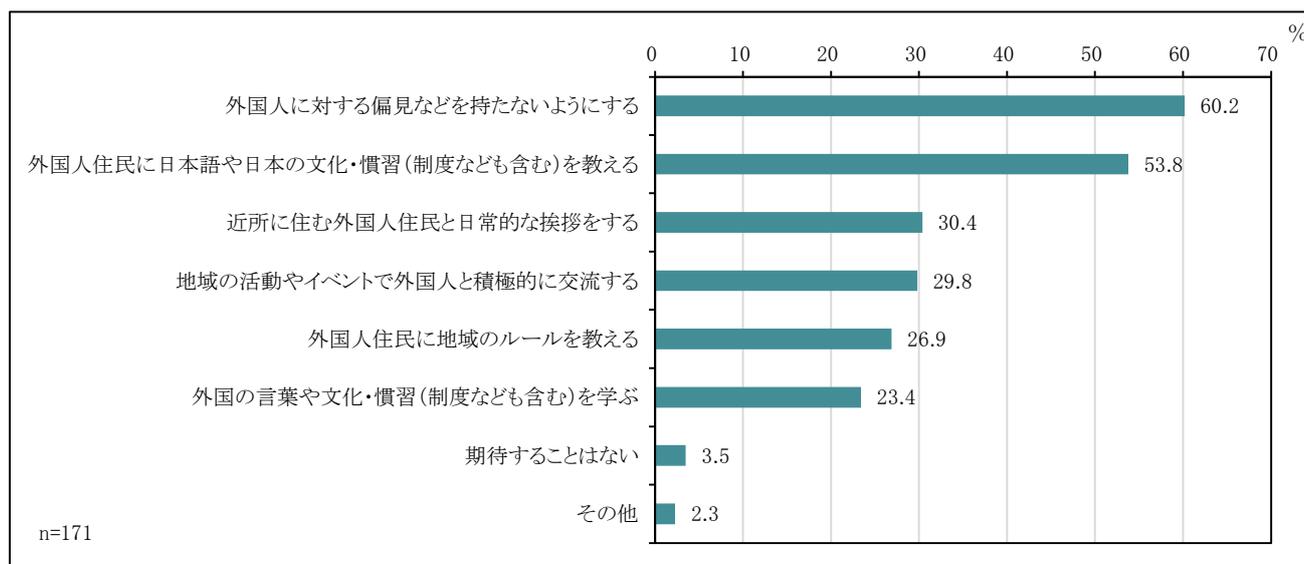
<「その他」の主な回答（自由記述）>

- 言語の壁を打破しなければ、多文化社会は実現できないと思う。
- 日本の法制度は、日本人の暗黙の知識に基づいて構築されているため、改善が必要だと思う。

(4) 共生社会のために日本人住民に期待すること

共生社会のために日本人住民に期待することについて尋ねたところ、「外国人に対する偏見などを持たないようにする」が60.2%と最も多く、次いで、「外国人住民に日本語や日本の文化・慣習（制度なども含む）を教える」（53.8%）、「近所に住む外国人住民と日常的な挨拶をする」（30.4%）、「地域の活動やイベントで外国人と積極的に交流する」（29.8%）、「外国人住民に地域のルールを教える」（26.9%）の順となっている。

【Q20】 共生社会の実現のために、日本人住民に期待することはどのようなことですか。（3つまで回答）



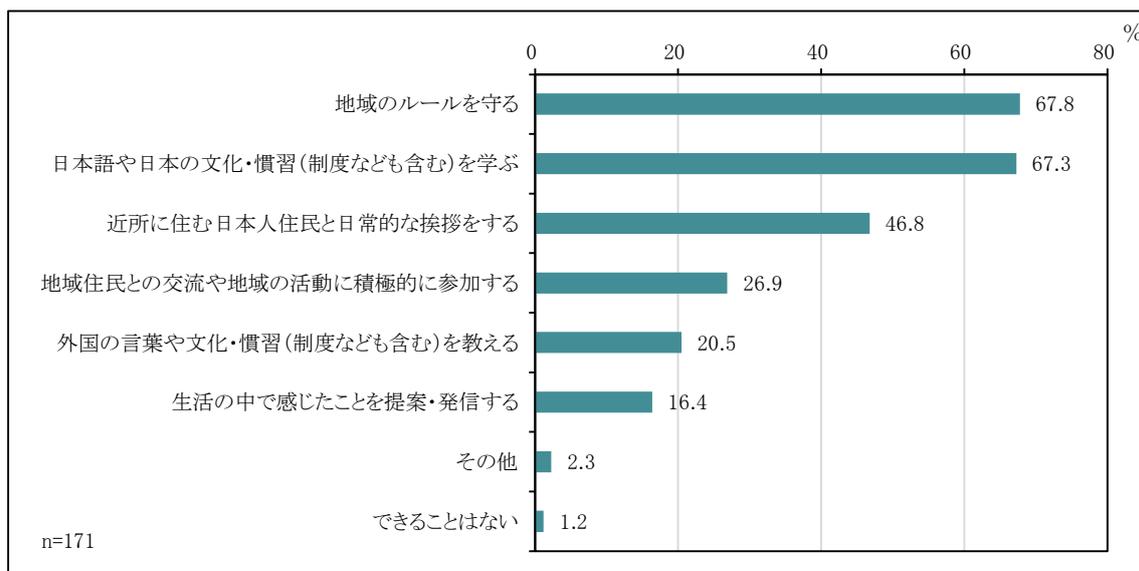
< 「その他」の主な回答（自由記述） >

- 小さい子供達に外国人とふれあわせることが大事だと思う。
- コミュニティイベントは最も良い活動の一つ。
- 日本人が他の文化を理解し、受け入れる柔軟性を持つことが必要。

(5) 共生社会のために自分ができること

共生社会のために自分ができることについて尋ねたところ、「地域のルールを守る」が67.8%と最も多く、次いで、「日本語や日本の文化・慣習（制度なども含む）を学ぶ」（67.3%）、「近所に住む日本人住民と日常的な挨拶をする」（46.8%）、「地域住民との交流や地域の活動に積極的に参加する」（26.9%）、「外国の言葉や文化・慣習（制度なども含む）を教える」（20.5%）の順となっている。

【Q21】 共生社会の実現のために、あなた自身はどんなことができますか。（3つまで回答）



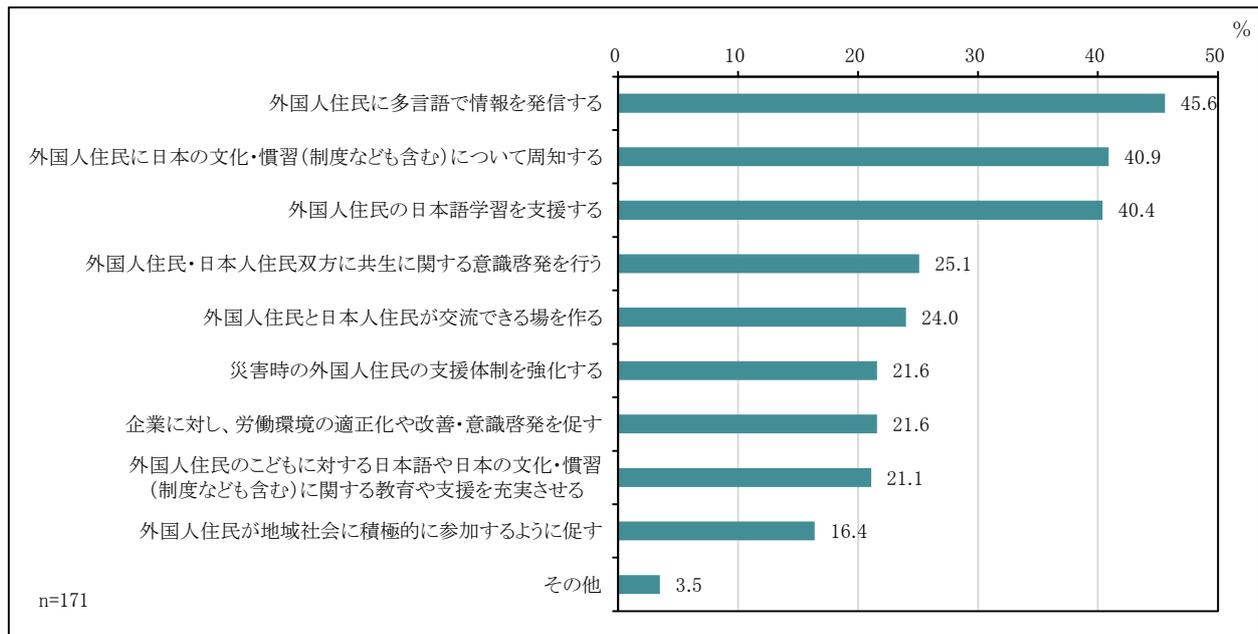
< 「その他」の主な回答（自由記述） >

- 困っている外国人の通訳をしたり、生活に困っていることを聞き、調べて教えてあげること。
- 可能なら、私が技能実習生として日本に来て努力していることを日本の皆さんに伝えていきたいと思う。

4 行政に求める取組

共生社会の実現のために行政に求める取組について尋ねたところ、「外国人住民に多言語で情報を発信する」が45.6%と最も多く、次いで、「外国人住民に日本の文化・慣習（制度なども含む）について周知する」（40.9%）、「外国人住民の日本語学習を支援する」（40.4%）、「外国人住民・日本人住民双方に共生に関する意識啓発を行う」（25.1%）、「外国人住民と日本人住民が交流できる場を作る」（24.0%）の順となっている。

【Q22】 共生社会の実現のために、行政にどんな取組を求めますか。（3つまで回答）



< 「その他」の主な回答（自由記述） >

- 市内のすべての部署で外国人住民のために翻訳支援を提供してくれること。
- レストランやスーパーマーケットに、ムスリムフレンドリーな商品（ハラール）をもっと提供するよう呼びかける。

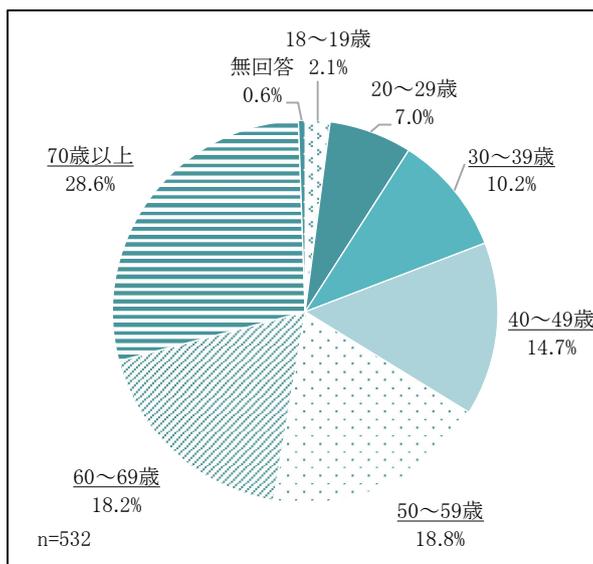
第3章 日本人住民向け調査の結果（概要）

1 回答者の属性

(1) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が28.6%と最も多く、次いで、「50～59歳」（18.8%）、「60～69歳」（18.2%）、「40～49歳」（14.7%）、「30～39歳」（10.2%）の順となっている。

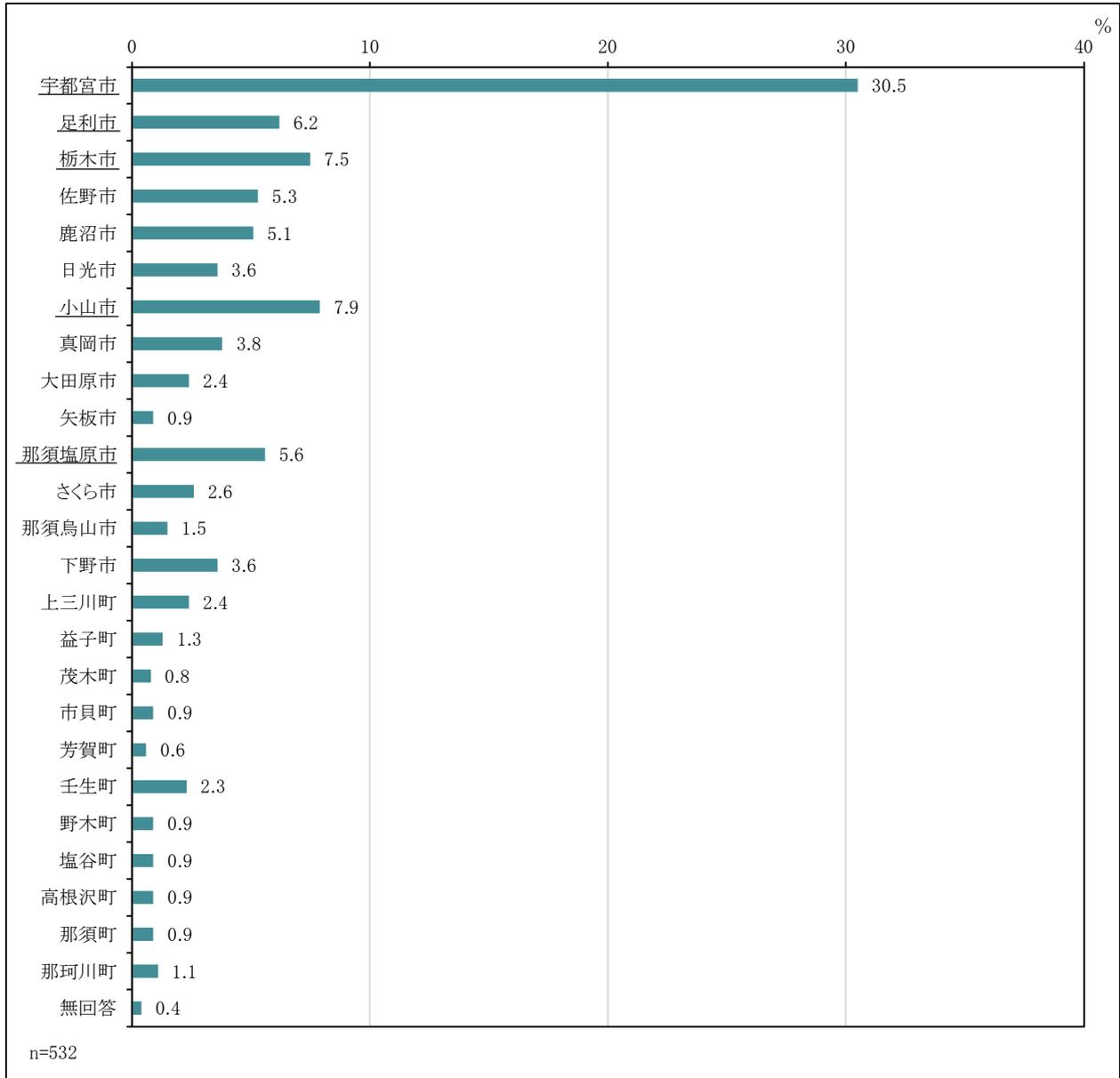
【問1】あなたは何歳ですか。



(2) 居住地

回答者の居住地は、「宇都宮市」が30.5%と最も多く、次いで、「小山市」(7.9%)、「栃木市」(7.5%)、「足利市」(6.2%)、「那須塩原市」(5.6%)の順となっている。

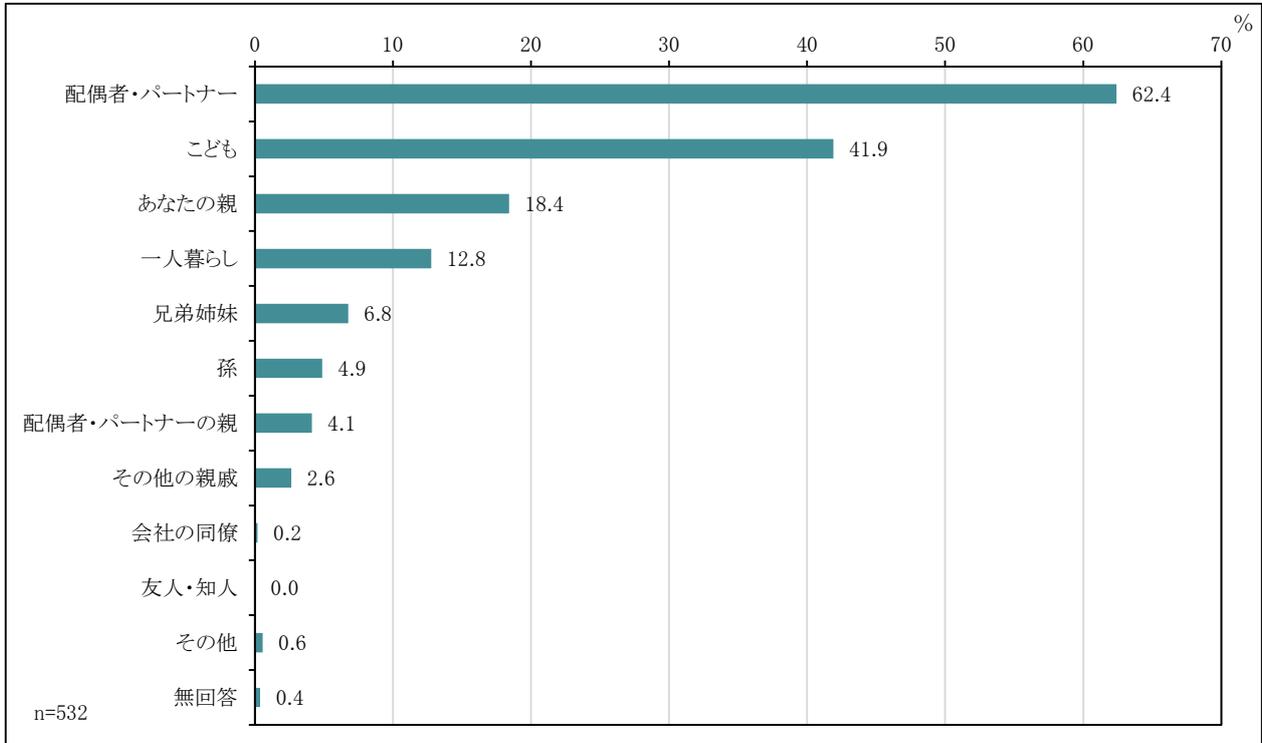
【問2】あなたの住んでいるところはどこですか。



(3) 同居者

回答者の同居者は、「配偶者・パートナー」が62.4%と最も多く、次いで、「子ども」(41.9%)、「あなたの親」(18.4%)、「一人暮らし」(12.8%)、「兄弟姉妹」(6.8%)の順となっている。

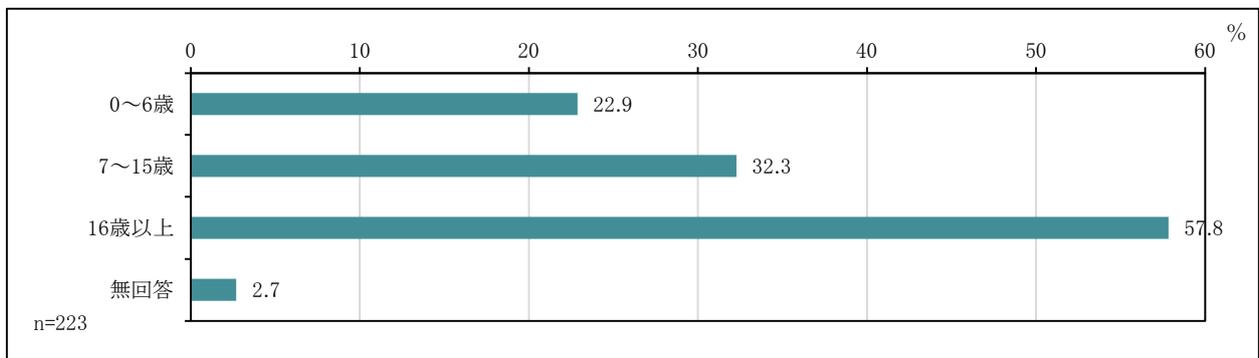
【問3】あなたと一緒に住んでいる方を教えてください。(複数回答)



一緒に住んでいる子どもの年齢は、「16歳以上」が57.8%と最も多く、次いで、「7～15歳」(32.3%)、「0～6歳」(22.9%)となっている。

【問3】あなたと一緒に住んでいる方を教えてください。(複数回答)

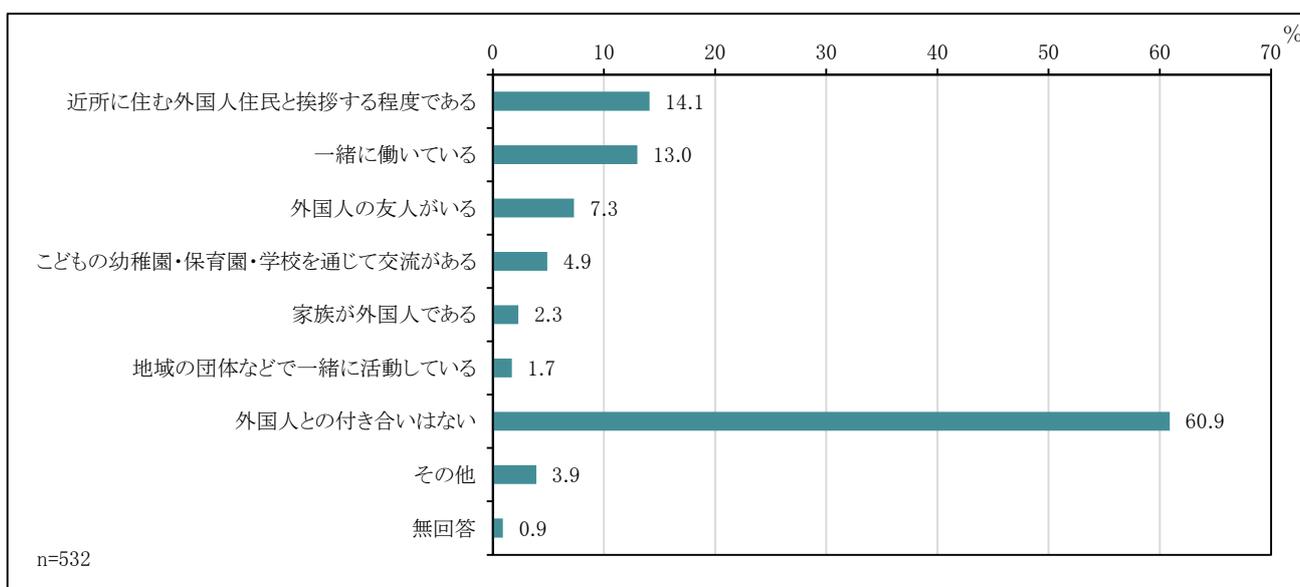
子どもの年齢



(4) 地域の外国人住民との付き合いの状況

回答者の地域の外国人住民との付き合いの状況は、「外国人との付き合いはない」が60.9%と最も多く、次いで、「近所に住む外国人住民と挨拶する程度である」(14.1%)、「一緒に働いている」(13.0%)、「外国人の友人がいる」(7.3%)、「こどもの幼稚園・保育園・学校を通じて交流がある」(4.9%)の順となっている。

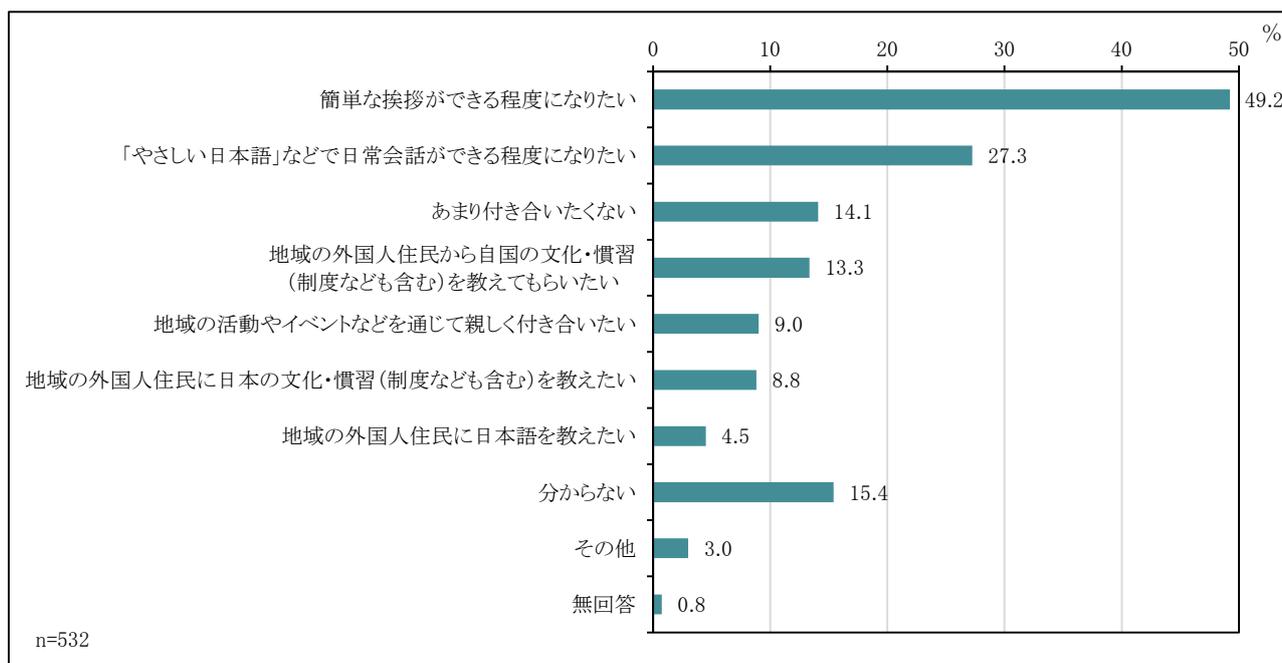
【問4】あなたは地域の外国人住民とどのような付き合いがありますか。(複数回答)



(5) 地域の外国人住民との付き合い（交流）の意向

回答者の地域の外国人住民との付き合い（交流）の意向は、「簡単な挨拶ができる程度になりたい」が49.2%と最も多く、次いで、「やさしい日本語」などで日常会話ができる程度になりたい」（27.3%）、「分からない」（15.4%）、「あまり付き合いたくない」（14.1%）、「地域の外国人住民から自国の文化・慣習（制度なども含む）を教えてもらいたい」（13.3%）の順となっている。

【問5】あなたは今後、地域の外国人住民とどのような交流をしたいと思いますか。（複数回答）



< 「その他」の主な回答（自由記述） >

- 近所に住んでいれば挨拶もするし、特別外国の方だからといって区別することもなく、日本人と同様に接したいと思う。
- 一切交流したくない。
- どちらともいえない。

2 栃木県で生活する外国人住民に関して感じること

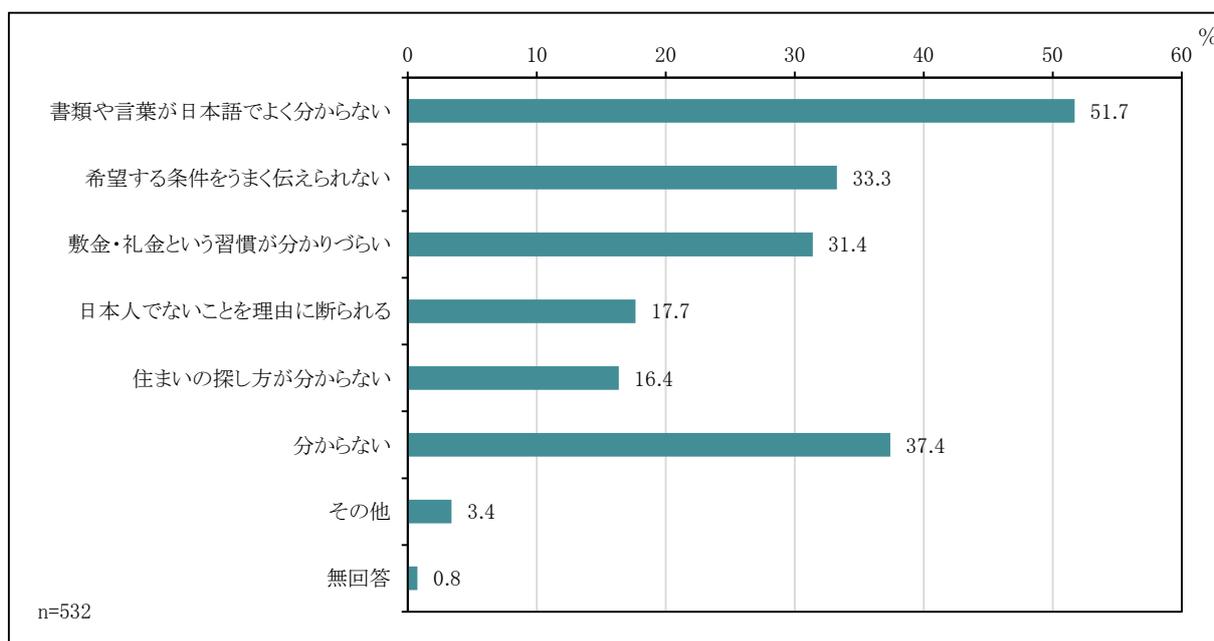
(1) 外国人住民が生活する上で抱えていると思う困難

ア 住まい（住まい探しから住み始まる前まで）

住まい（住まい探しから住み始まる前まで）の場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「書類や言葉が日本語でよく分からない」が51.7%と最も多く、次いで、「分からない」(37.4%)、「希望する条件をうまく伝えられない」(33.3%)、「敷金・礼金という習慣が分かりづらい」(31.4%)、「日本人でないことを理由に断られる」(17.7%)の順となっている。

【問6】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。（複数回答）

ア 住まい（住まい探しから住み始まる前まで）



< 「その他」の主な回答（自由記述） >

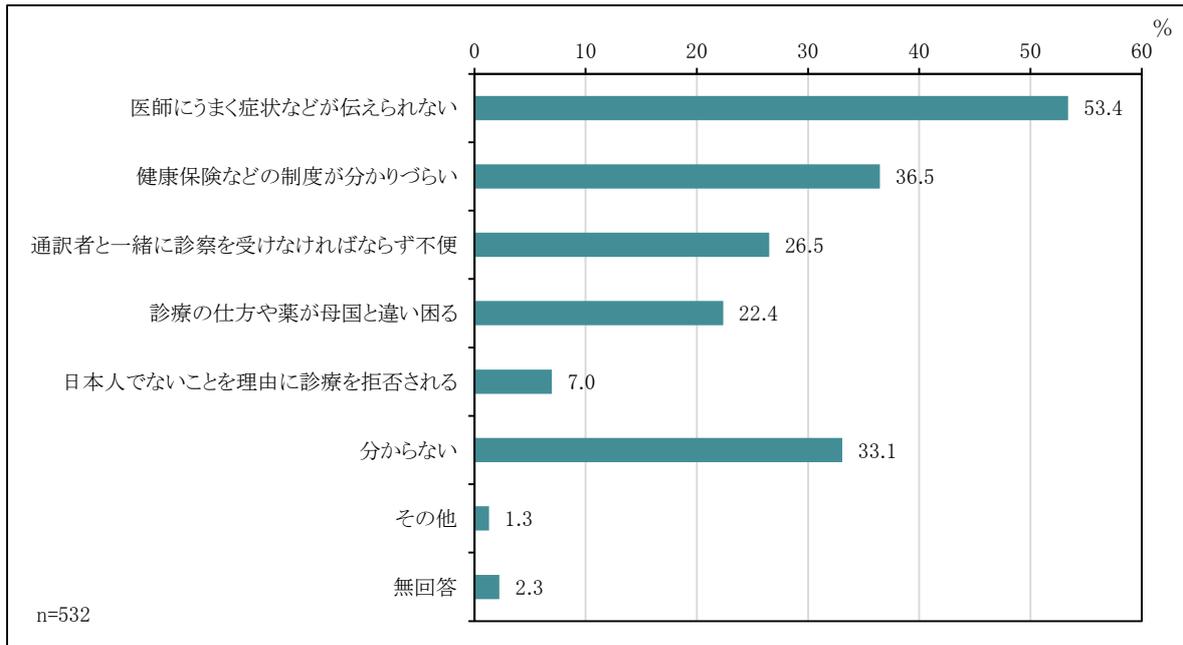
- 保証人の確保。
- 他の国で生活する覚悟で来ているので、皆日本語を勉強してきているのではないかな。

イ 病気や怪我

病気や怪我の場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「医師にうまく症状などが伝えられない」が53.4%と最も多く、次いで、「健康保険などの制度が分かりづらい」(36.5%)、「分からない」(33.1%)、「通訳者と一緒に診察を受けなければならず不便」(26.5%)、「診療の仕方や薬が母国と違い困る」(22.4%)の順となっている。

【問7】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。(複数回答)

イ 病気や怪我



<「その他」の主な回答（自由記述）>

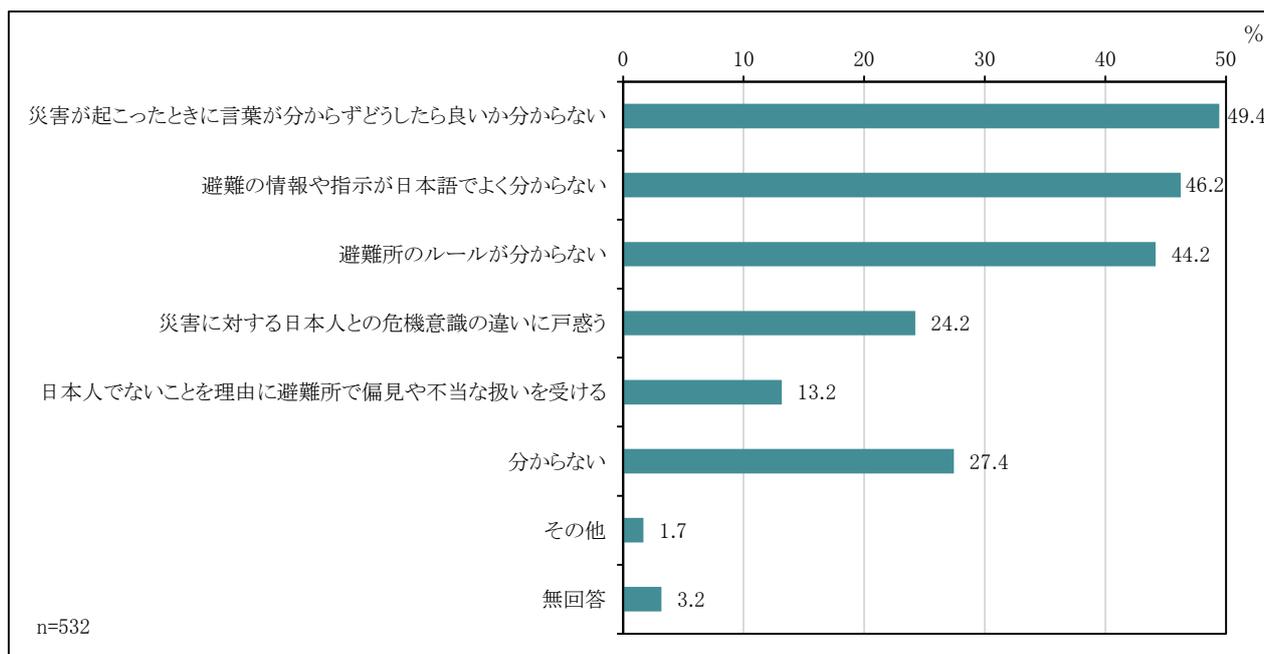
- 健康診断で、スタッフに英語で対応できる方がいなかったためうまく説明が伝わらず、互いに戸惑っているところを見たことがある。
- 言語は、医師がある程度英語が話せるため問題ないのではないか。

ウ 災害

災害の場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「災害が起こったときに言葉が分からずどうしたら良いか分からない」が49.4%と最も多く、次いで、「避難の情報や指示が日本語でよく分からない」(46.2%)、「避難所のルールが分からない」(44.2%)、「分からない」(27.4%)、「災害に対する日本人との危機意識の違いに戸惑う」(24.2%)の順となっている。

【問8】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。(複数回答)

ウ 災害



< 「その他」の主な回答 (自由記述) >

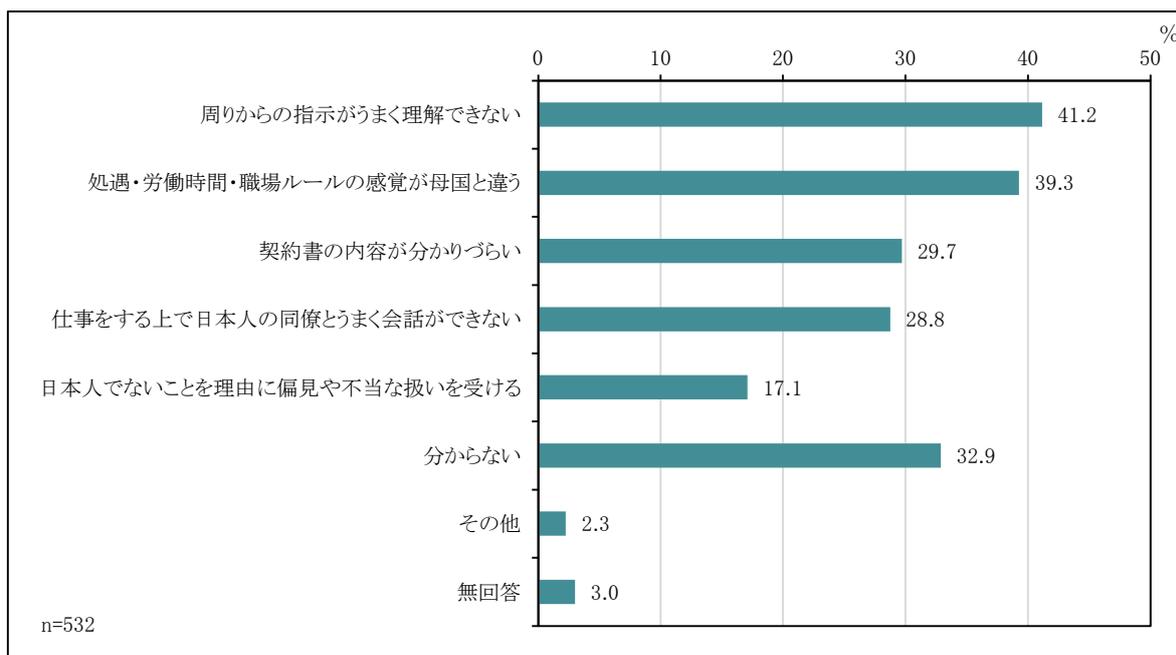
- 災害の情報が伝わらない。
- 火災もあれば水害、地震等もあり、むずかしい。

エ 仕事

仕事の場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「周りからの指示がうまく理解できない」が41.2%と最も多く、次いで、「処遇・労働時間・職場ルールが母国と違う」(39.3%)、「分からない」(32.9%)、「契約書の内容が分かりづらい」(29.7%)、「仕事をする上で日本人の同僚とうまく会話ができない」(28.8%)の順となっている。

【問9】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。(複数回答)

エ 仕事



< 「その他」の主な回答 (自由記述) >

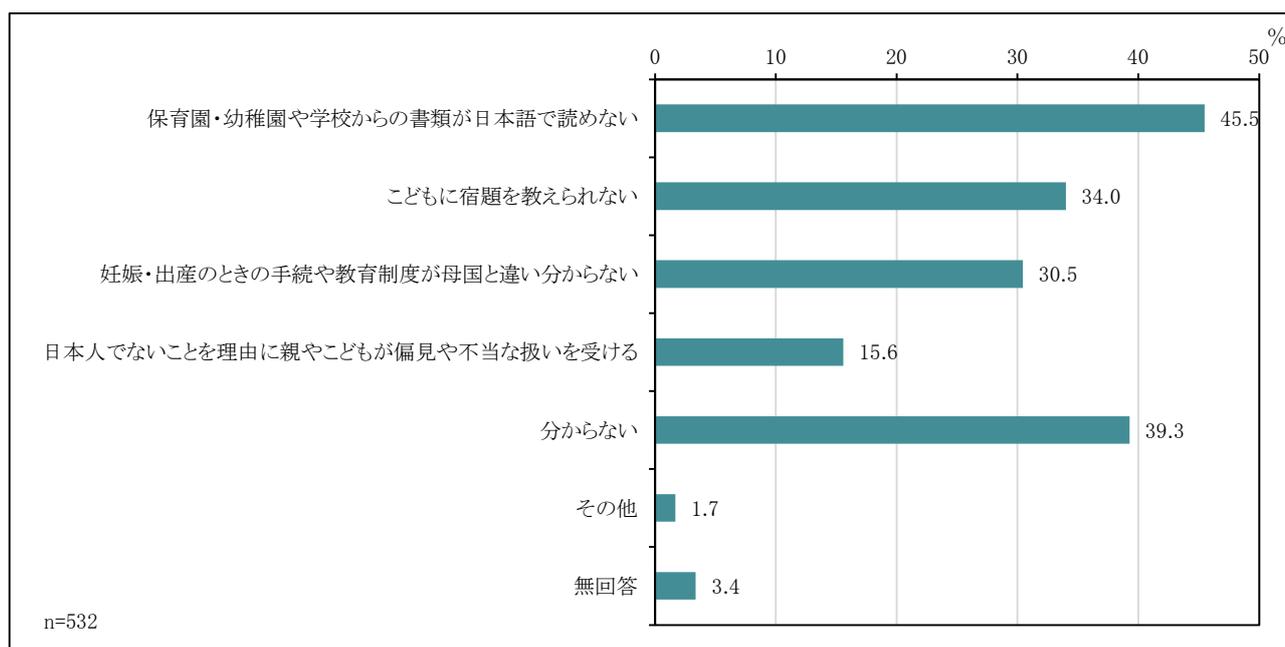
- 接客のある仕事の時にお客様と意思疎通ができない。
- 私の職場では英語でも対応できるようになっているので、英語が分かる人であれば問題ないと思う。

オ 教育・子育て

教育・子育ての場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「保育園・幼稚園や学校からの書類が日本語で読めない」が45.5%と最も多く、次いで、「分からない」(39.3%)、「こどもに宿題を教えられない」(34.0%)、「妊娠・出産のときの手続や教育制度が母国と違い分からない」(30.5%)、「日本人でないことを理由に親やこどもが偏見や不当な扱いを受ける」(15.6%)の順となっている。

【問10】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。(複数回答)

オ 教育・子育て



<「その他」の主な回答(自由記述)>

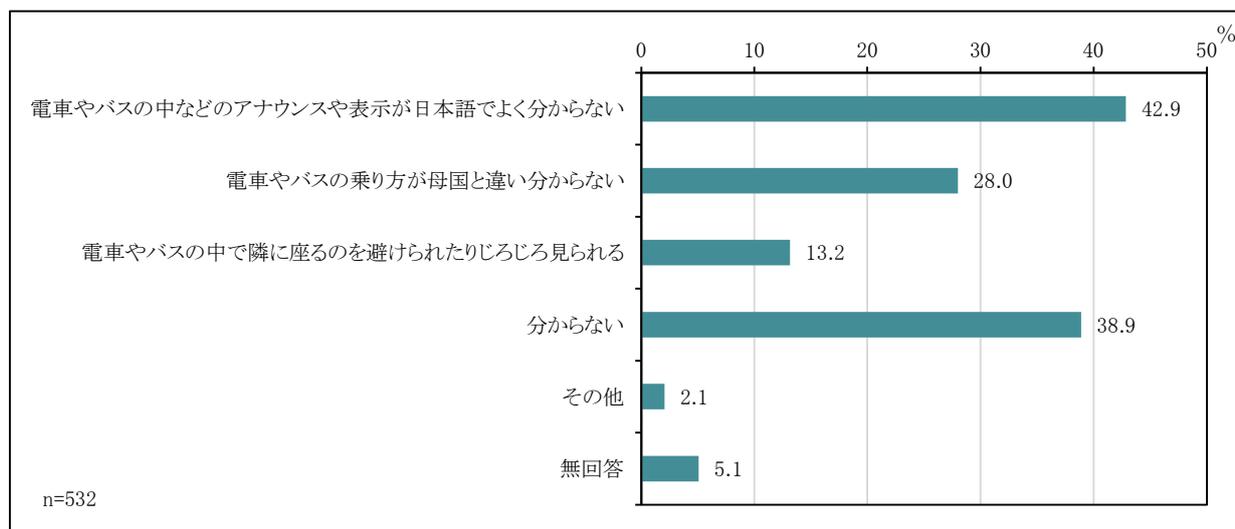
- 日本語以外の言語で申込みをして、給食費等の免除がされているため困っていないと思う。
- 学校の習慣(部活動やPTAなどで役員を伴う親同士の交流)がわからない。

カ 交通

交通の場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「電車やバスの中などのアナウンスや表示が日本語でよく分からない」が42.9%と最も多く、次いで、「分からない」(38.9%)、「電車やバスの乗り方が母国と違い分からない」(28.0%)の順となっている。

【問11】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。(複数回答)

カ 交通



< 「その他」の主な回答 (自由記述) >

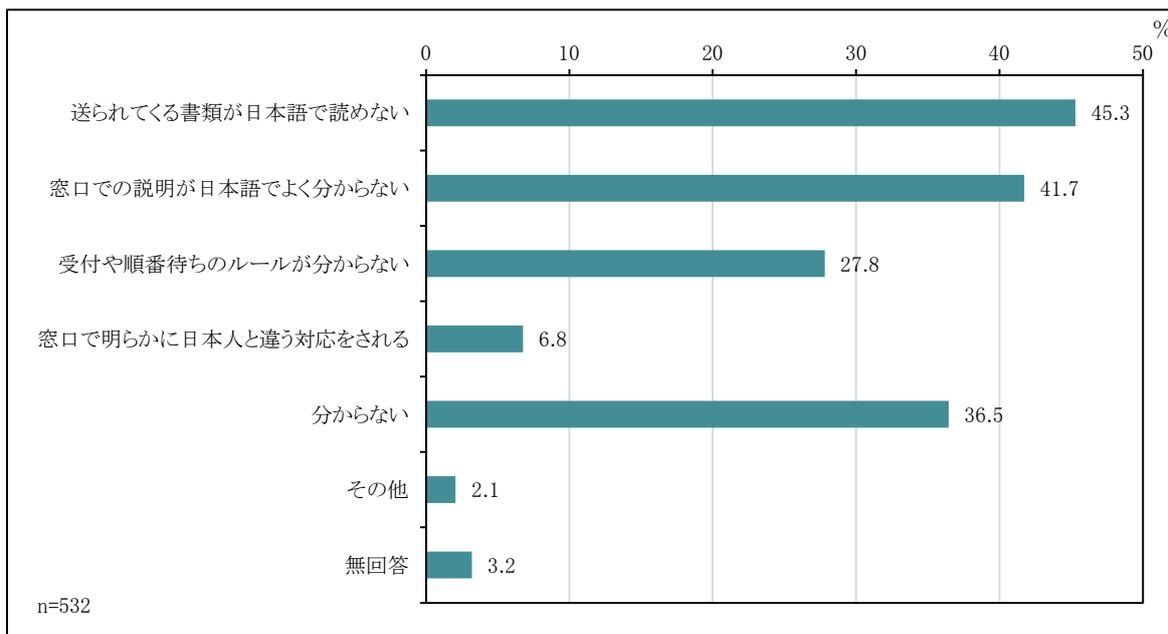
- バスの運転手が外国人に慣れていない。
- 最近は車内アナウンスや標識など外国語を表示されているので、比較的わかりやすいと思う。

キ 役所での手続

役所での手続の場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「送られてくる書類が日本語で読めない」が45.3%と最も多く、次いで、「窓口での説明が日本語でよく分からない」(41.7%)、「分からない」(36.5%)、「受付や順番待ちのルールが分からない」(27.8%)、「窓口で明らかに日本人と違う対応をされる」(6.8%)の順となっている。

【問12】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。(複数回答)

キ 役所での手続



<「その他」の主な回答（自由記述）>

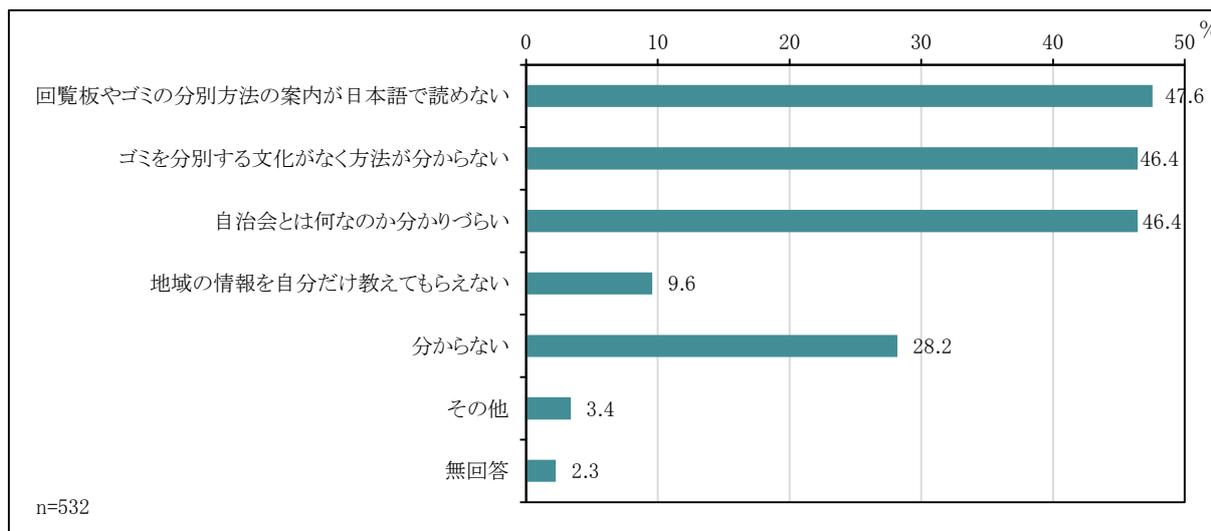
- 「役所」としての名称が場所によって違うことがあり（「行政サービスセンター」など）、日本人でも迷うことがある。
- 職場の方がお世話しているため、困っていないと思う。

ク 地域のルール

地域のルールの場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「回覧板やゴミの分別方法の案内が日本語で読めない」が47.6%と最も多く、次いで、「ゴミを分別する文化がなく方法が分からない」・「自治会とは何なのか分かりづらい」(46.4%)、「分からない」(28.2%)、「地域の情報を自分だけ教えてもらえない」(9.6%)の順となっている。

【問13】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。(複数回答)

ク 地域のルール



< 「その他」の主な回答 (自由記述) >

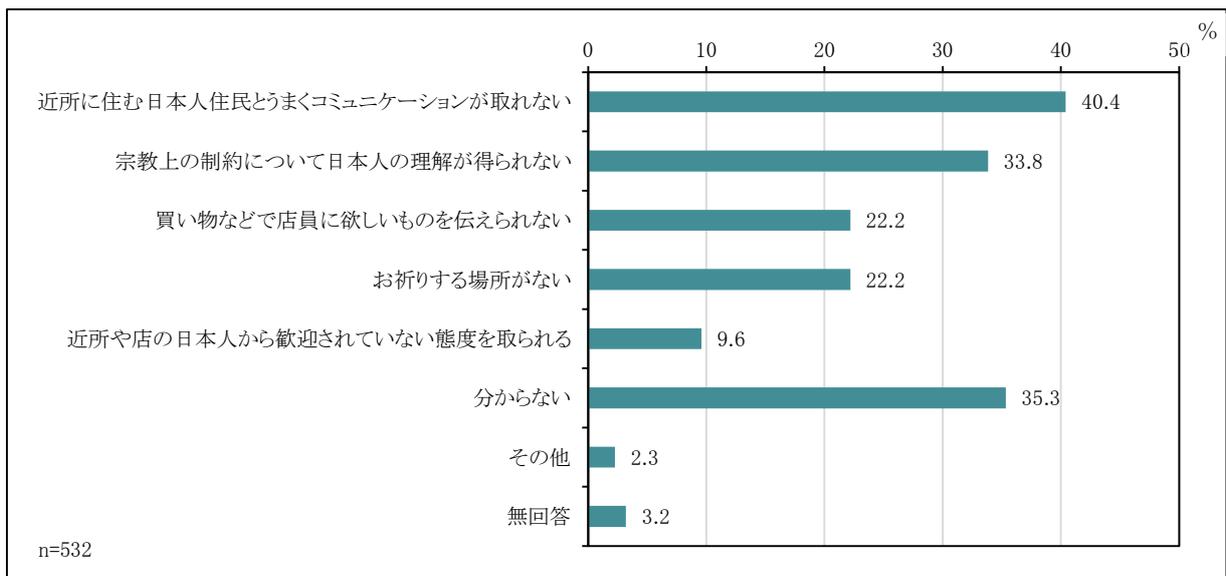
- 地域住民 (日本人) との距離のとり方がわからない。
- 寮に入っているので会社の人に聞いていると思う。

ケ その他の日常生活

その他の日常生活の場面において外国人住民が抱えていると思う困難については、「近所に住む日本人住民とうまくコミュニケーションが取れない」が40.4%と最も多く、次いで、「分からない」(35.3%)、「宗教上の制約について日本人の理解が得られない」(33.8%)、「買い物などで店員に欲しいものを伝えられない」(22.2%)、「お祈りする場所がない」(22.2%)の順となっている。

【問13】あなたが住んでいる地域では、外国人住民にとってどんな困難があると思いますか。(複数回答)

ケ その他の日常生活



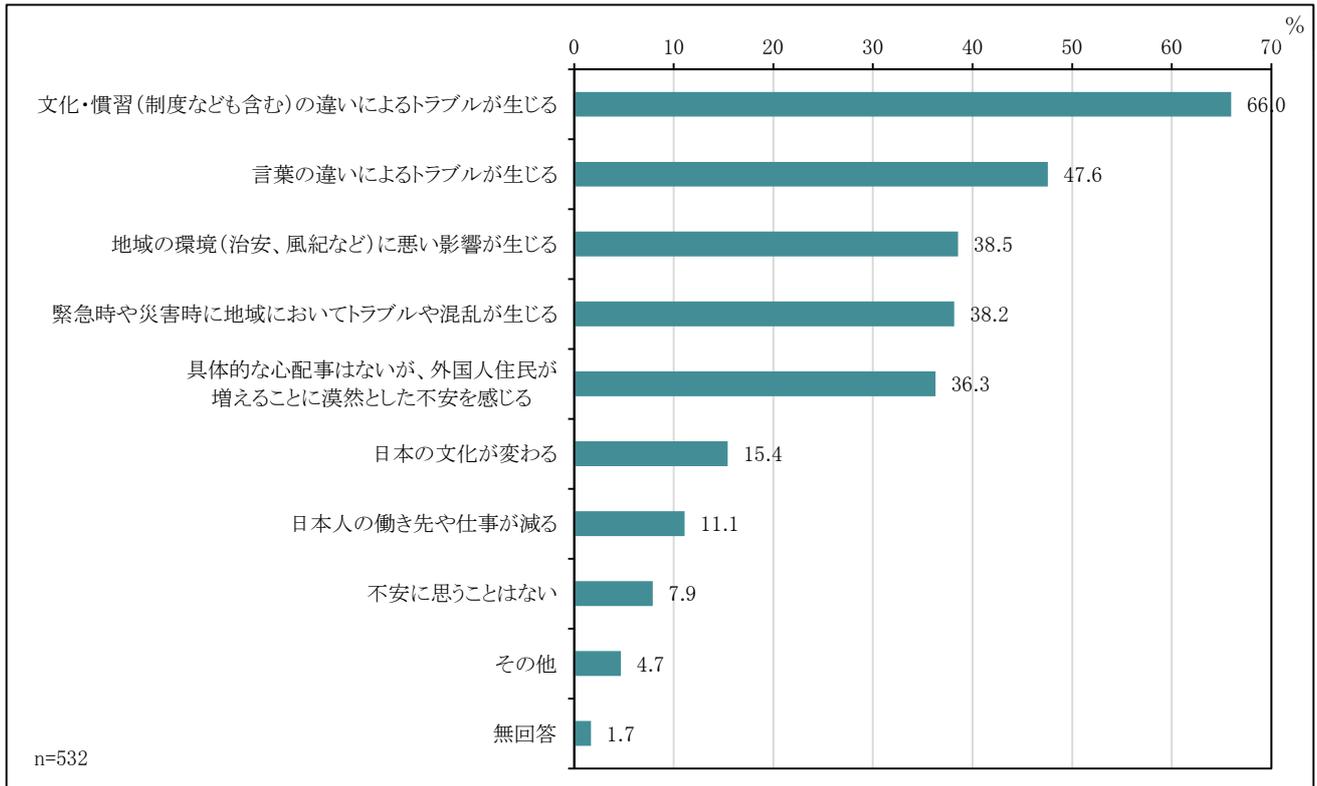
< 「その他」の主な回答 (自由記述) >

- 同じ国・文化圏の人たちで集まって騒いだりすることを迷惑と捉えられる (歓迎されない)。
- 何も問題ないと思う。

(2) 外国人住民が増え続けることが見込まれる中で不安に思うこと

外国人住民が増え続けることが見込まれる中で不安に思うことについては、「文化・慣習（制度なども含む）の違いによるトラブルが生じる」が66.0%と最も多く、次いで、「言葉の違いによるトラブルが生じる」（47.6%）、「地域の環境（治安、風紀など）に悪い影響が生じる」（38.5%）、「緊急時や災害時に地域においてトラブルや混乱が生じる」（38.2%）、「具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる」（36.3%）の順となっている。

【問 15】 栃木県で外国人住民が今後も増え続けることが見込まれる中、不安に思うことはありますか。（複数回答）



< 「その他」の主な回答（自由記述） >

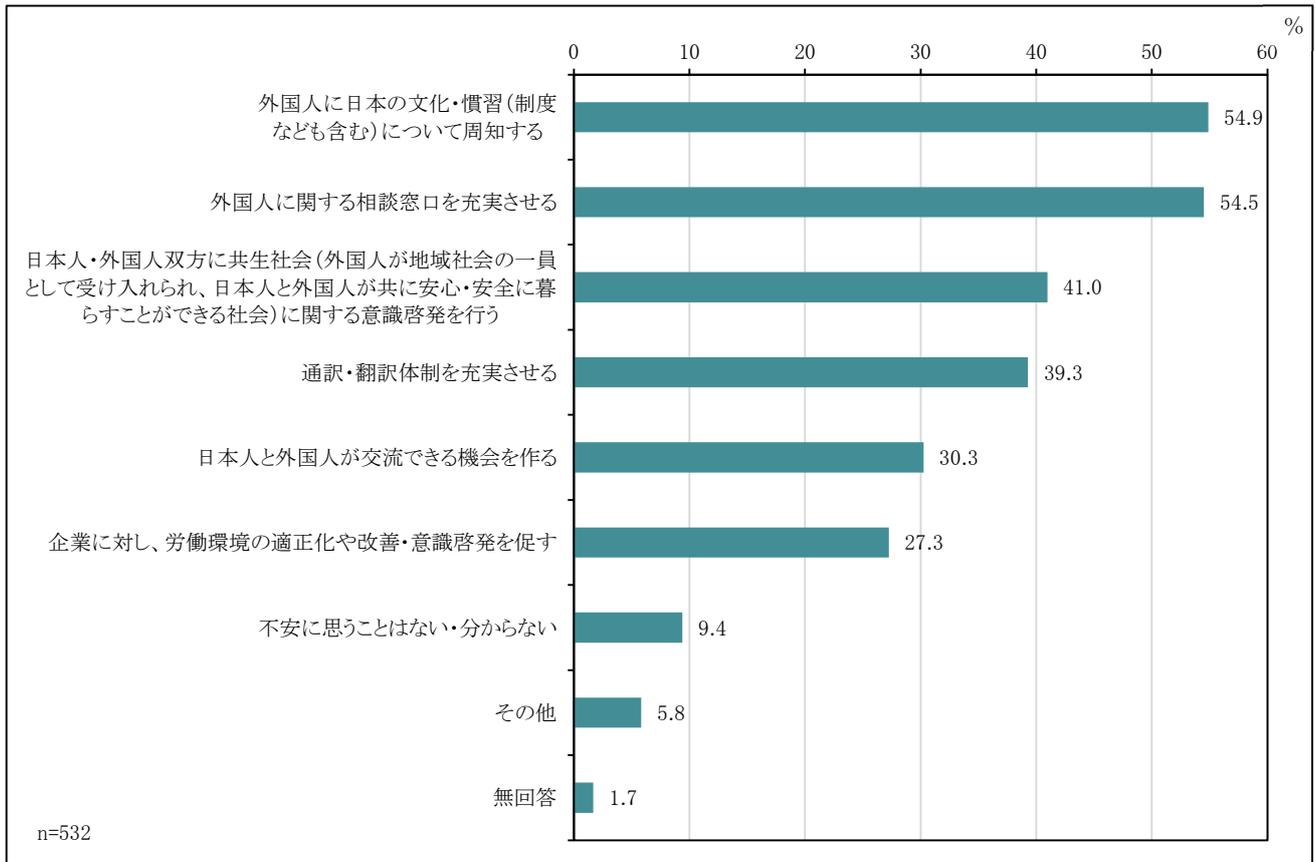
- 外国人同士のコミュニティが形成されて独自ルールを通されることが懸念される。
- 地域により大きな差はあると思う。今のところ当地域において不安はない。
- 日本人ですら住みづらく感じる部分があるのにそこを改善できなければ外国人の問題解決まで至らないと思う。

(3) 外国人住民の増加への不安はどのようなことがあればなくなるか

外国人住民の増加への不安はどのようなことがあればなくなるかについては、「外国人に日本の文化・慣習（制度なども含む）について周知する」が54.9%と最も多く、次いで、「外国人に関する相談窓口を充実させる」（54.5%）、「日本人・外国人双方に共生社会（外国人が地域社会の一員として受け入れられ、日本人と外国人が共に安心・安全に暮らすことができる社会）に関する意識啓発を行う」（41.0%）、「通訳・翻訳体制を充実させる」（39.3%）、「日本人と外国人が交流できる機会を作る」（30.3%）の順となっている。

【問 16】外国人住民が増加することへの不安について、どのようなことがあれば不安がなくなるとお考えですか。

（複数回答）



< 「その他」の主な回答（自由記述） >

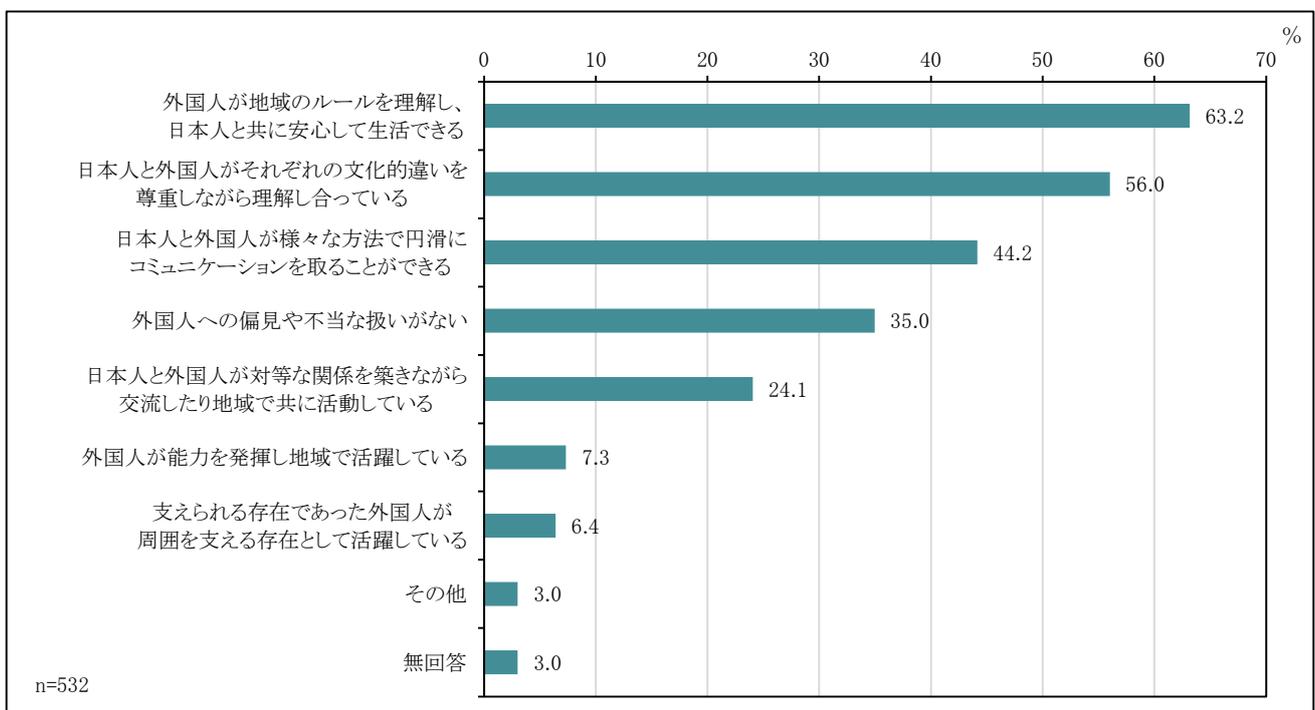
- 行政が外国人との共生のメリットを明確に打ち出す。外国人が増えることが問題なのではなく社会をより豊かにしていくのだというメッセージを発信する。役場や学校などに外国人をもっと採用し（コンビニのように）、日本人の外国人アレルギーをなくしていく（特に子供のころから）。
- 全てにおいて間に入ってくれる人が必要。
- 外国語の自動翻訳機等（携帯のアプリ等）がどんな所でも利用できると、様々な説明が伝わりやすくなるように思う。
- 外国人の支援ばかりで、日本人の支援が少なく感じる。まずは日本人を守る方が先ではないか。
- どんな事をして、不安はなくなるらない。

3 共生社会のために必要なこと・自分にできること

(1) 共生社会において必要な環境

共生社会において必要な環境について尋ねたところ、「外国人が地域のルールを理解し、日本人と共に安心して生活できる」が63.2%と最も多く、次いで、「日本人と外国人がそれぞれの文化的違いを尊重しながら理解し合っている」(56.0%)、「日本人と外国人が様々な方法で円滑にコミュニケーションを取ることができる」(44.2%)、「外国人への偏見や不当な扱いがない」(35.0%)、「日本人と外国人が対等な関係を築きながら交流したり地域で共に活動している」(24.1%)の順となっている。

【問17】あなたにとって、共生社会（外国人が地域社会の一員として受け入れられ、日本人と外国人が共に安心・安全に暮らすことができる社会）とは、どのような環境が整っている社会のことだと思いますか。（3つまで回答）



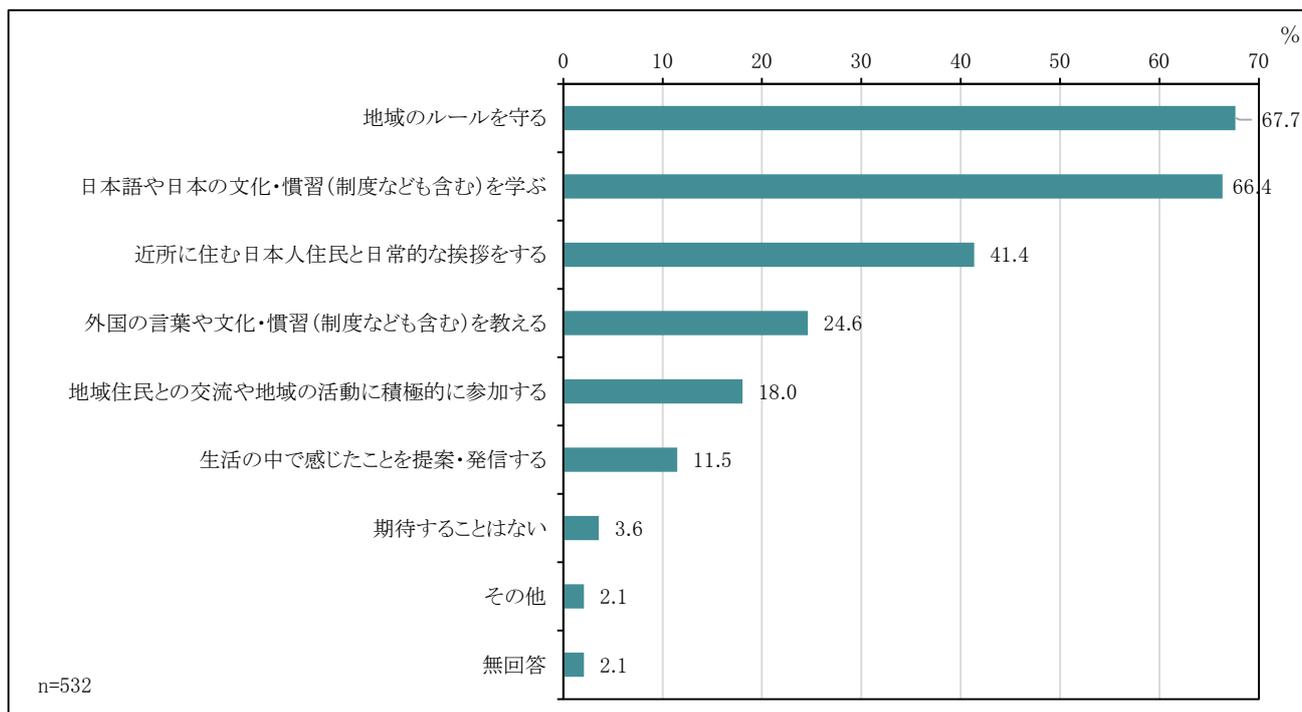
< 「その他」の主な回答（自由記述） >

- 個人では大変でも、自治会・組織でコミュニケーションが取れる。
- 外国人との共生社会には反対である。

(2) 共生社会のために外国人住民に期待すること

共生社会のために外国人住民に期待することについて尋ねたところ、「地域のルールを守る」が67.7%と最も多く、次いで、「日本語や日本の文化・慣習（制度なども含む）を学ぶ」（66.4%）、「近所に住む日本人住民と日常的な挨拶をする」（41.4%）、「外国の言葉や文化・慣習（制度なども含む）を教える」（24.6%）、「地域住民との交流や地域の活動に積極的に参加する」（18.0%）の順となっている。

【問18】共生社会の実現のために、外国人住民に期待することはどのようなことですか。（3つまで回答）



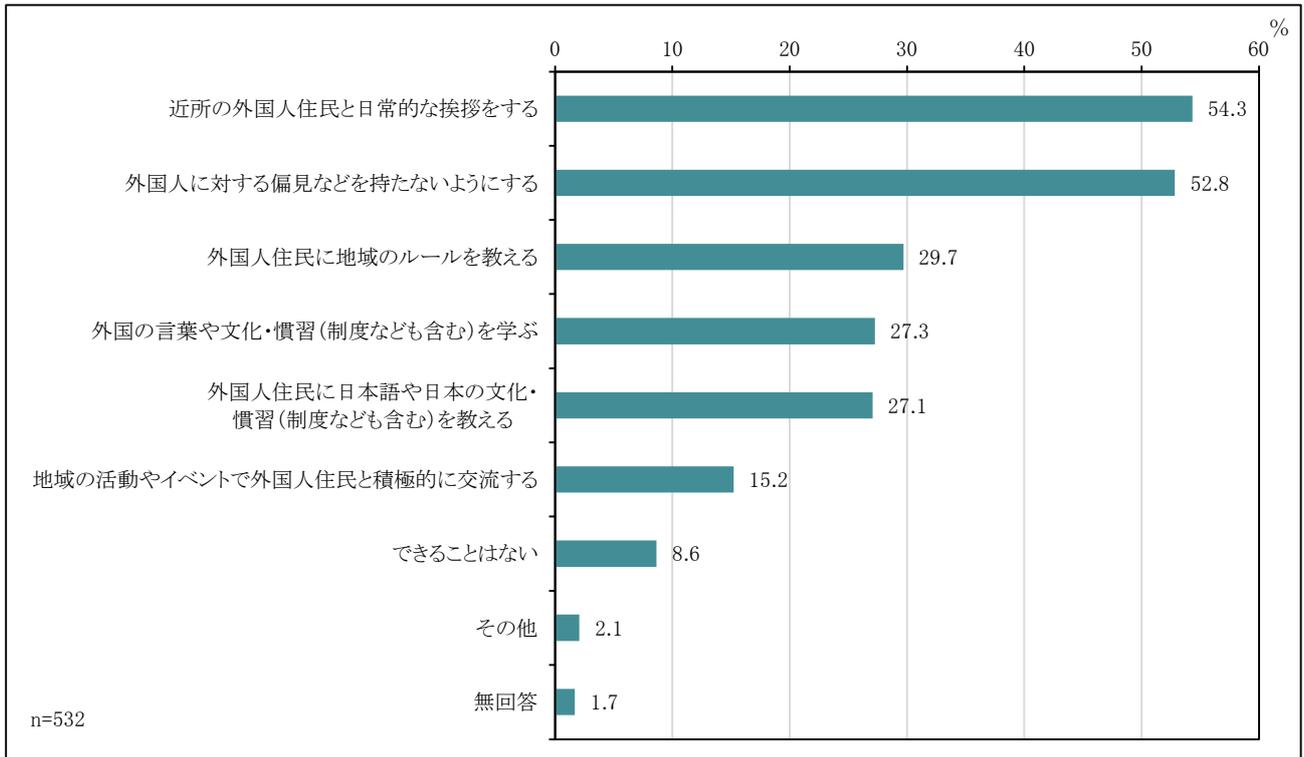
<「その他」の主な回答（自由記述）>

- 日常的なルール、交通ルール等を守ってほしい。
- 外国の文化を日本人に強要しないこと。

(3) 共生社会のために自分ができること

共生社会のために自分ができることについて尋ねたところ、「近所の外国人住民と日常的な挨拶をする」が54.3%と最も多く、次いで、「外国人に対する偏見などを持たないようにする」(52.8%)、「外国人住民に地域のルールを教える」(29.7%)、「外国の言葉や文化・慣習(制度なども含む)を学ぶ」(27.3%)、「外国人住民に日本語や日本の文化・慣習(制度なども含む)を教える」(27.1%)の順となっている。

【問 19】 共生社会の実現のために、あなた自身はどんなことができますか。(3つまで回答)



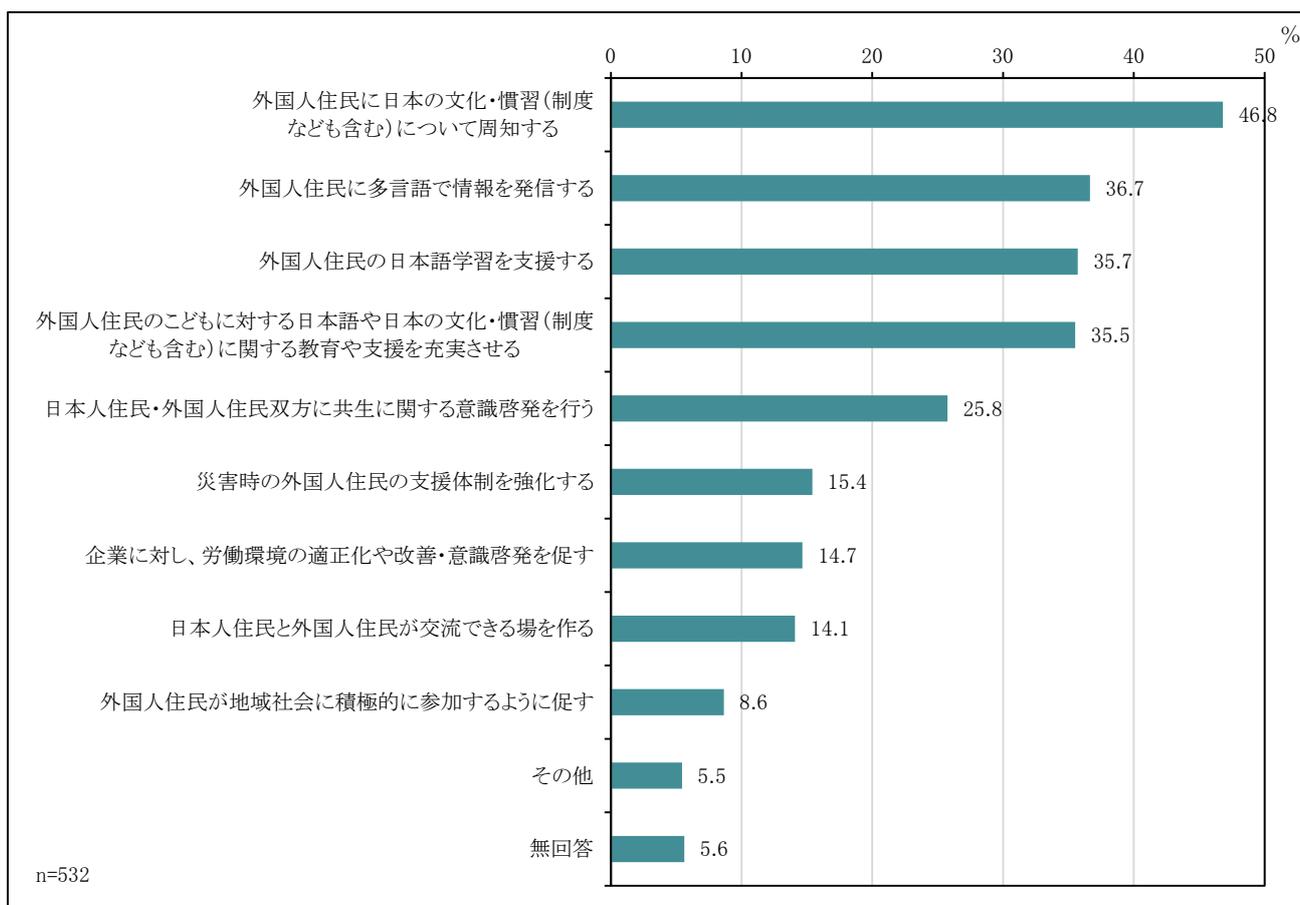
< 「その他」の主な回答(自由記述) >

- 協力できることがあれば、何でもしたい。
- 何かはあると思うが分からない。

4 行政に求める取組

共生社会の実現のための行政に求める取組について尋ねたところ、「外国人住民に日本の文化・慣習（制度なども含む）について周知する」が46.8%と最も多く、次いで、「外国人住民に多言語で情報を発信する」（36.7%）、「外国人住民の日本語学習を支援する」（35.7%）、「外国人住民のこどもに対する日本語や日本の文化・慣習（制度なども含む）に関する教育や支援を充実させる」（35.5%）、「日本人住民・外国人住民双方に共生に関する意識啓発を行う」（25.8%）の順となっている。

【問 20】 共生社会の実現のために、行政にどんな取組を求めますか。（3つまで回答）



< 「その他」の主な回答（自由記述） >

- 外国人全員に行政の取組を周知するのではなく、国籍ごとにリーダーを選出してリーダーから周知してもらおう。
- 外国人だけでなく日本人にも平等に支援をすることが大切だと考える。
- 不法滞在の取り締まりの強化。
- 何度言ってもルール等を守らない外国人は出入国在留管理庁と共同してペナルティーを科す条例を制定して欲しい。
- 外国人との共生社会には反対である。

令和6（2024）年度 地域国際化実態調査報告書（概要）

令和7（2025）年3月発行

発行者 〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田 1-1-20

栃木県生活文化スポーツ部 県民協働推進課

電話 028（623）3422